

2026年度 大学院政策創造研究科 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

(修士課程) 基本科目_選択必修【XW004】 研究法 [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	1
(修士課程) 基本科目_選択必修【XW005】 調査法 [高尾 真紀子] 春学期前半/Spring(1st half)	2
(修士課程) 基本科目_選択必修【XW006】 質的研究法 [齊藤 弘通] 春学期前半/Spring(1st half)	3
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW009】 地域社会論 [上山 肇] 秋学期前半/Fall(1st half)	5
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW010】 まちづくり事例研究 [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half)	6
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW011】 比較都市事例研究 [伴 宣久] 春学期前半/Spring(1st half)	7
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW013】 文化基盤形成論 [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half)	8
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW015】 コンテンツツーリズム論 [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half)	10
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW020】 コミュニティメディア論 [北郷 裕美] 秋学期後半/Fall(2nd half)	11
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW021】 ニューツーリズム論 [北郷 裕美] 秋学期前半/Fall(1st half)	12
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW022】 観光開発論 [北郷 裕美] 春学期前半/Spring(1st half)	13
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW023】 フィールドワーク論 [北郷 裕美] 春学期後半/Spring(2nd half)	14
(修士課程) 基本科目_選択必修【XW024】 観光社会学 [高岡 文章] 春学期前半/Spring(1st half)	15
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW025】 文化社会学 [宮入 恭平] 春学期後半/Spring(2nd half)	16
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW026】 地域コミュニティ論 [中島 由紀] 秋学期後半/Fall(2nd half)	17
(修士課程) プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW027】 観光マーケティング論 [青木 洋高] 春学期集中/Intensive(Spring)	19
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW033】 地域経営戦略論 [渡邊 政嘉] 春学期集中/Intensive(Spring)	20
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW034】 地域イノベーション論 [橋本 正洋] 秋学期前半/Fall(1st half)	22
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW037】 消費者政策論 [柿野 成美] 春学期集中/Intensive(Spring)	23
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW039】 SDGsと企業経営 [田中 優希] 秋学期前半/Fall(1st half)	24
(修士課程) 基本科目_選択必修【XW040】 CSR論 [佐々木 恭子] 春学期後半/Spring(2nd half)	25
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW044】 非営利組織特論 [今瀬 政司] 春学期集中/Intensive(Spring)	26
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW045】 ダイバーシティ経営 [福田 智美] 春学期集中/Intensive(Spring)	28
(修士課程) プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW046】 コーポレートガバナンス [林 順一] 秋学期後半/Fall(2nd half)	30
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW047】 少子高齢化と社会保障 [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	31
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW048】 ウェルビーイング論 [高尾 真紀子] 秋学期前半/Fall(1st half)	32

(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW050】 雇用政策研究(マクロ) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half)	33
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW051】 地域雇用政策事例研究 [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half)	35
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW052】 人材育成論 [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half)	36
(修士課程) 基本科目_選択必修【XW053】 人的資源管理論 [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	37
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW058】 実証分析入門 [梅溪 健児] 秋学期前半/Fall(1st half)	38
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW059】 キャリア理論と統計分析 [佐藤 雄一郎] 春学期前半/Spring(1st half)	40
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW060】 キャリア政策研究 [岸田 泰則] 春学期後半/Spring(2nd half)	42
(修士課程) プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW061】 男女共同参画政策論 [池永 肇恵] 春学期後半/Spring(2nd half)	43
(修士課程) 関連科目【XW065】 レポートライティング [佐藤 雄一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	44
(修士課程) 関連科目【XW153】 特別講義Ⅰ(統計学入門) [後藤 嘉孝] 春学期後半/Spring(2nd half)	46
(修士課程) 演習科目【XW201】 プログラム演習 [石山 恒貴] 春学期授業/Spring	48
(修士課程) 演習科目【XW202】 プログラム演習 [石山 恒貴] 秋学期授業/Fall	49
(修士課程) 演習科目【XW203】 プログラム演習 [上山 肇] 春学期授業/Spring	50
(修士課程) 演習科目【XW204】 プログラム演習 [上山 肇] 秋学期授業/Fall	51
(修士課程) 演習科目【XW205】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 春学期授業/Spring	52
(修士課程) 演習科目【XW206】 プログラム演習 [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall	53
(修士課程) 演習科目【XW207】 プログラム演習 [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	54
(修士課程) 演習科目【XW208】 プログラム演習 [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	55
(修士課程) 演習科目【XW209】 プログラム演習 [北郷 裕美] 春学期授業/Spring	56
(修士課程) 演習科目【XW210】 プログラム演習 [北郷 裕美] 秋学期授業/Fall	57
(博士後期課程) 研究指導科目【XW311】 雇用政策特殊研究Ⅰ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	58
(博士後期課程) 研究指導科目【XW312】 雇用政策特殊研究Ⅱ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	60
(博士後期課程) 研究指導科目【XW313】 雇用政策特殊研究Ⅲ [石山 恒貴] 集中・その他/intensive・other courses	62
(博士後期課程) 研究指導科目【XW314】 都市政策特殊研究Ⅰ [上山 肇] 集中・その他/intensive・other courses	64
(博士後期課程) 研究指導科目【XW315】 都市政策特殊研究Ⅱ [上山 肇] 集中・その他/intensive・other courses	65
(博士後期課程) 研究指導科目【XW316】 都市政策特殊研究Ⅲ [上山 肇] 集中・その他/intensive・other courses	66
(博士後期課程) 研究指導科目【XW317】 地域社会政策特殊研究Ⅰ [高尾 真紀子] 集中・その他/intensive・other courses	67
(博士後期課程) 研究指導科目【XW318】 地域社会政策特殊研究Ⅱ [高尾 真紀子] 集中・その他/intensive・other courses	69
(博士後期課程) 研究指導科目【XW319】 地域社会政策特殊研究Ⅲ [高尾 真紀子] 集中・その他/intensive・other courses	70
(博士後期課程) 研究指導科目【XW320】 文化政策特殊研究Ⅰ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	71
(博士後期課程) 研究指導科目【XW321】 文化政策特殊研究Ⅱ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	72
(博士後期課程) 研究指導科目【XW322】 文化政策特殊研究Ⅲ [増淵 敏之] 集中・その他/intensive・other courses	73
(博士後期課程) 専門領域科目【XW351】 都市政策特殊講義(地域社会論) [上山 肇] 秋学期前半/Fall(1st half)	74
(博士後期課程) 専門領域科目【XW352】 都市政策特殊講義(まちづくり事例研究) [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half)	75
(博士後期課程) 専門領域科目【XW353】 文化政策特殊講義(文化基盤形成論) [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half)	76
(博士後期課程) 専門領域科目【XW354】 文化政策特殊講義(コンテンツツーリズム論) [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half)	78
(博士後期課程) 専門領域科目【XW361】 地域社会政策特殊講義(少子高齢化と社会保障) [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	79
(博士後期課程) 専門領域科目【XW362】 地域社会政策特殊講義(ウェルビーイング論) [高尾 真紀子] 秋学期前半/Fall(1st half)	80
(博士後期課程) 専門領域科目【XW363】 雇用政策特殊講義(雇用政策研究(マクロ)) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half)	81
(博士後期課程) 専門領域科目【XW364】 雇用政策特殊講義(地域雇用政策事例研究) [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half)	83

(博士後期課程) 専門領域科目【XW365】雇用政策特殊講義(人材育成論) [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half)	84
(博士後期課程) 専門領域科目【XW366】雇用政策特殊講義(人の資源管理論) [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	85

BSP510R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

研究法

上山 肇

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成手法の習得

【到達目標】

研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2回(3・4)	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3回(5・6)	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4回(7・8)	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5回(9・10)	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6回(11・12)	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7回(13・14)	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した先行研究の調査・分析を行います。それと並行し、文献を事前に読み、配布資料や演習問題（スライド作成等）の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、スライド作成等）に対応してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」（公人の友社）。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】**[Course Outline]**

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

[Learning Objectives]

Setting research themes and creating research plans based on previous research.

[Learning activities outside of classroom]

Survey and analysis of previous research according to your theme

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

BSP510R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）
調査法
高尾 真紀子
科目分類：基本科目（選択必修） 単位：2単位
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的なデータの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】

データサイエンスの基礎的な考え方を理解した上で、量的調査の実証分析の方法を習得し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実際に統計データを使用して計算ソフト（EXCEL）による分析方法を実習し、分析結果を正しく解釈するための統計の基礎を学ぶ。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としないが、エクセルの基礎的操作は習得していることが望ましい。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション 経済統計の基礎	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ。経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
2回(3・4)	社会調査の方法：質問票の作成 調査結果の集計・分析	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する。調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する。
3回(5・6)	統計の基礎	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ。カイ二乗検定、t 検定、F 検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う。
4回(7・8)	相関分析・回帰分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する。単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
5 回 (9・10)	重回帰分析	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学び、様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する。

6回(11・12) 多変量解析
統計分析演習

因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。

7回(13・14) 課題発表

各自の問題意識や研究テーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excelの基本操作が出来るようにしておくこと。

授業中のデータを保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。

本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門（修士論文）に関連したテーマを選び、現状分析を行い(データをさがし加工する)、レポートを作成（文章と図表で説明）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

飽戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書
神林博史・三輪哲『社会調査のための統計学 生きた事例で理解する』技術評論社
中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』
森田果『実証分析入門』日本評論社
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社
西内啓『統計学が日本を救う 少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社
涌井良幸、涌井 貞美『Excelで学ぶ統計解析』
涌井良幸、涌井 貞美『図解 使える統計学』

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、実習（30％）、レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

各自エクセルが使用できるPCを持参すること

【その他の重要事項】

基礎的な内容なので、出来る限り早期（1年目）に履修することが望ましい。
教員はシンクタンクで社会調査及び統計分析の実務経験を有しており、調査分析の実務経験に基づく実践的な授業を実施する。

【Outline (in English)】

This course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

質的研究法

齊藤 弘通

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的研究法とは、事象の性質や特徴といった数値化しにくいデータを扱い、事象を質的に理解、説明、解釈しようとする研究方法であり、量的研究ではアプローチできない研究課題を解明する上で有用なものである。本科目ではこの質的研究法の特性や質的研究を行う際の流れを理解するとともに、質的研究で用いられる代表的な分析手法について理解、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ①質的研究法の特性、研究プロセスが説明できる。
- ②インタビュー法や観察法を用いて質的データを収集することができる。
- ③収集した質的データを適切に分析・解釈することができる。
- ④質的研究を活用した研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は各回とも講義と演習を織り交ぜながら進めていく。
- ・演習は個人で行うものとチームで行うものがある。
- ・提出された課題については毎回いくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・第6回・第7回ではチームで設定した調査課題に関するインタビューデータを収集・分析するとともに、最終報告の途中経過について発表する。（インタビュー調査については対面またはZOOMなどを活用したオンライン上での実施を想定）
- ・講義は質的研究法の初学者を念頭において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	質的研究の特性と研究プロセス	量的研究との対比から、質的研究の持つ特性について詳しく理解する。また、質的研究の一般的な流れ（リサーチクエスションの設定、調査対象の選定とデータの収集、テキストデータに対するコーディングとカテゴリ化、概念モデル・理論の生成）について理解する。
2回(3・4)	質的データ収集の技法①インタビュー法	質的データを収集するための技法であるインタビュー法の類型や特徴、インタビュー調査の際に準備すべきこと、インタビューの具体的な進め方について理解する。
3回(5・6)	質的データ収集の技法②観察法	質的データを収集するための技法である観察法の類型や特徴、進め方について理解する。また、映像データを観察し、フィールドノーツを作成する手順を実際に体験する。

4回(7・8) 質的データの解釈・分析

収集した質的データに対して、コードを割り当て（コーディング）、カテゴリを生成していくプロセスについて理解する。また、カテゴリ間の関係性を図解し、分析結果をストーリーラインにまとめていく手順を把握する。質的研究で用いられる代表的な分析法（M-GTA、SCAT、TEM、ドキュメント分析等）について理解する。また、M-GTAなど、代表的な質的データ分析法を用いた研究論文を読み、分析手続きの仕方や結果のまとめ方を把握する。

5回(9・10) 代表的な質的データ分析法

チームごとに、設定された調査課題に応じて実際にインタビュー調査を行い、質的データを収集するとともに、得られたデータを分析する演習を行う。チームごとにインタビュー調査の途中経過を報告資料にまとめ、発表する。（なお最終報告資料は、途中経過報告に対する教員からのフィードバックを踏まえ、授業後の指定期日までに提出する。）また、自身の研究において質的研究を用いる場合の研究計画について検討する。

6回(11・12) 質的データの収集・分析演習

7回(13・14) 演習結果の発表・研究計画の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①本授業の準備学習および復習のため、質的研究法に関する文献や論文を読み、ポイントを要約する。（文献や論文は都度授業において配布する）
 - ②授業内で行った演習に関する課題に取り組む。（課題の内容は随時指示する）
 - ③チームで取り組むインタビュー調査演習において、授業外の時間を用いて、データの分析と調査報告資料の作成を行う。
 - ④レポート課題に取り組む。（レポートのテーマは授業において指示する）
- ・本授業の準備学習および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するレジュメ（パワーポイントにて作成）をテキストとして使用する。

【参考書】

ウヴェ・フリック著・小田博志監訳『新版 質的研究入門<人間の科学>のための方法論』春秋社,2011年
 太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへー研究計画から論文作成までー』東京図書,2019年
 大谷尚『質的研究の考え方 研究方法論からSCATによる分析まで』名古屋大学出版会,2019年
 佐藤郁哉『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社,2002年
 佐藤郁哉『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社,2008年
 サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編『質的研究法マッピング』新曜社,2019年
 須田敏子『マネジメント研究への招待 研究方法の種類と選択』中央経済社,2019年
 岡田昌毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTAによるキャリア研究』見洋書房, 2017年
 その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分により、成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループ演習への積極的参加）20%
- ②文献・論文の要約および課題への取り組み 20%
- ③インタビュー調査報告資料の作成（チームにて作成）20%
- ④レポート課題への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

- ・質的研究のイメージをより深めてもらえるよう、オープンコーディングやM-GTA、SCAT、TEM、事例研究法など、様々な質的分析法が用いられた論文を昨年度より多く紹介する。
- ・質的データの分析過程についてより体験的に理解してもらえるよう、授業で使った演習用の題材やワークシートを改良する。
- ・質的データ分析におけるオープンコーディングの手続きについて時間をかけて体験していただくようにする。
- ・これから修士論文の執筆を控える学生の参考になるよう、M-GTAなどの質的データ分析法を活用した修士論文の作成事例を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

- ・少人数チームでのインタビュー調査演習（インタビュー調査の実施、データの分析、調査報告資料の作成）があることにご留意いただきたい。また当該演習において授業外の時間を活用する場合があります点もお含みおきいただきたい。
- ・なお、授業外でインタビュー調査を行う際には、ZOOMなどのオンラインミーティングツールを活用する場合があることも含みおきいただきたい。
- ・担当教員は、リサーチやコンサルティング業務の実務においても、クライアント組織や調査対象者から情報を得るために、インタビュー調査やフィールドワークなどの質的調査を長年実施してきた経験を有している。こうした実務経験を踏まえ、授業ではインタビュー調査の基本的な方法論だけでなく、質問の組み立て方、調査対象者との関係構築の仕方、語りを引き出す聞き方、得られたデータの整理・解釈の方法などについて、具体的な事例を交えながら解説する。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course introduces the qualitative research methods to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an understanding the characteristics and process of qualitative research methods.

【Goal】

The goals of this course are to

- be able to explain the characteristics and process of qualitative research methods,
- be able to collect qualitative data using interview survey and observation method,
- be able to analyze and interpret the collected qualitative data properly,
- be able to make a research plan using qualitative research.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Read and summarize the literature and articles on qualitative research methods.
- Work on assignments related to the exercises in the class.
- Analyze qualitative data and prepare research report materials for the interview research exercise in teams, using time outside of class.
- Work on the report assignment.

【Grading criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Ordinary points (class attendance, active participation in group exercises) :20%
- Summarization of documents and articles and work on assignments: 20%
- Preparation of interview survey report materials (prepared by team): 20%
- Efforts and quality of the report assignment: 40%

ARSx520R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

地域社会論

上山 肇

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／

群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】

地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2回(3・4)	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における「混住地域」などをテーマに授業を進めます。事例研究(1)
3回(5・6)	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、「サステナブル・シティ」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(2)
4回(7・8)	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から「地域社会とまちづくり」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(3)
5回(9・10)	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に「地方分権」や「参加」、「ルール」等について考えます。事例研究(4)
6回(11・12)	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に「再開発」や「福祉のまちづくり」といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(5)
7回(13・14)	土地と環境	論点が広い「土地と環境」の中でも、特に「都市計画」や「景観」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

実践・自治体まちづくり学－まちづくり人材の育成を目指して－（公人の友社）。まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業（1回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces local community and community development to students taking this course.

[Learning Objectives]

1. Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).
2. Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.

[Learning activities outside of classroom]

Please read the materials to be distributed.

[Grading Criteria / Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx520R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

まちづくり事例研究

上山 肇

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】

フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながらいって行くことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それらを表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2回(3・4)	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3回(5・6)	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4回(7・8)	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5回(9・10)	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6回(11・12)	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7回(13・14)	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象地に関する資料収集とフィールドワークを行います。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、発言20％、作品30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARSk520R1（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

比較都市事例研究

伴 宣久

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸から現代までの東京における各時代の都市政策の背景、課題、解決策を多角的に学びます。受講生は、ソフト・ハードの都市政策の変遷を学び、それを参考に自身で選んだ都市を、経営層になったつもりで特定のテーマに着目し今後の社会状況に変化に応じた新たな都市政策を提案します。

【到達目標】

- ・江戸から現代までの東京の都市政策を時系列で理解する。
- ・都市政策の課題解決策やその影響を多面的に分析する能力を身につける。
- ・将来の社会状況を考慮した政策提案を行うスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

江戸から東京の都市政策の変遷の歴史を講義し、その後、受講者によるディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	オリエンテーション
	講義（江戸時代の都市政策とその背景）	江戸の都市政策の特徴 ディスカッション
2回(3・4)	講義（明治初期の都市政策と東京の近代化）	東京の近代都市への転換 ディスカッション
3回(5・6)	講義（関東大震災後の復興と都市設計）	災害復興を通じた都市政策の進化 ディスカッション
4回(7・8)	講義（戦後復興期の都市政策）	戦災復興計画と都市政策の変革 ディスカッション
5回(9・10)	講義（高度成長期の都市政策から公害問題への転換）	経済発展と都市問題の両立を 探る 課題中間発表
6回(11・12)	講義（バブル期と成熟期）	バブル崩壊の教訓と都市再生 施策 ディスカッション
7回(13・14)	講義（持続可能性とこれからの都市施作）	人口減少・高齢化・都市インフラの再編・サステイナブルなまちづくり 最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習・復習 3時間/各回 21時間

調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク 8時間

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

東京の都市づくりのあゆみ（東京都）。

江戸・東京の「地形と経済」のしくみ（鈴木浩三、日本実業出版社）。東京都市計画物語（越沢明、ちくま書房）。東京都市計画の遺産（越沢明、ちくま書房）。実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作）30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生が作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

【その他の重要事項】

東京都特別区で10数年、専門職の担当者として区内のハード・ソフトのまちづくりに関与しました。さらに在職中に大学院後期課程を修了し、都市解析の分野で工学博士号を取得し様々なまちづくり計画策定にその経験をフィードバックしました。現在も、行政のまちづくり勉強会の事務局長を勤めています。本講座では、東京のハード、ソフト施作を江戸開府から現在まで、社会状況の変化とそれに対応する施作を学びながら、都市の変化を具体的に捉え政策を立案する手法を学びます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, Students will learn the background from Edo to modern Tokyo and challenges and solutions of the urban policies of each period from various perspectives. Students will also learn about the changes in software-hardware of the city policies and use them as a reference to propose new city policies that will change according to future social conditions by focusing on specific themes with the intention of becoming a mayor.

【Grading Criteria / Policy】

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARSI520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

文化基盤形成論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要もあるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	文化基盤についての概念、歴史地理的なアプローチの検討	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成 /Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
2回(3・4)	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers About the formation of cultural foundation by the settlement of Ikebukuro Montparnasse and Hosei University village

3回(5・6)	サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション/Salon formation, case studies / street communication
4回(7・8)	札幌における文化基盤形成のプロセス /The process of forming a cultural foundation in Sapporo	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開 /Development of cultural infrastructure formation / industry creation centered on Sapporo Agricultural College
5回(9・10)	福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス /The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク /Forming a cultural foundation centered on pop music / Japanese cultural network in prewar Dalian
6回(11・12)	海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介/Introducing London Chelsea, New York Greenwich Village, Munich Schwabing, etc.
7回(13・14)	履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表 /Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students	履修学生の発表を行う /Announce students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。13/14 回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

今橋映子『異都憧憬 日本人のパリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表含む）30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】

より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16-18時。放送、音楽業界で実務経験あり。その経験、視点を授業に具体的に活かしていく。

【Outline (in English)】

Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

TRS520R1（観光学 / Tourism Studies 500）

コンテンツツーリズム論

増淵 敏之

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content-Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
2回(3・4)	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力 /History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介 /Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
3回(5・6)	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム /Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom

4回(7・8) 「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenon

マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism

5 回 (9・10) 司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ /Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content

歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images

6回 (11・12) ご当地ソング考、「鬼滅の刃」を巡る /Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"

ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例 /Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism

7回 (13・14) 新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る /Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work

現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響 /Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「物語を旅するひとびと」 増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと 2」 増淵敏之, 彩流社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVDを使用することもある。

【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 - 18 時。放送、音楽業界で実務経験あり。その経験、視点を授業に具体的に活かしていく。

【Outline (in English)】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

ARSI520R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 500)

コミュニティメディア論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目 (選択) | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会(特に地域社会)の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティメディア、市民のメディアを捉えるべきか、を考える。

【到達目標】

本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル(規範モデル)を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義冒頭で内容を反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在(失われた空間の意味するところ)：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2回(3・4)	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3回(5・6)	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access) を視聴する：米国映画(Public Access) についての意見交換と解説

4回(7・8)	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画(コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品)を視聴する：日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
5回(9・10)	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティ放送の概要と機能 公共性指標	日本のコミュニティ FM 放送を取材したNHKドキュメンタリーほか動画視聴 意見交換と解説：北海道のコミュニティ FM 放送調査を事例に解説
6回(11・12)	コミュニティ FM 放送の組織経営課題 メディアと防災①～コミュニティ放送を事例に	コミュニティ FM 放送の組織経営の在り方と課題：コミュニティメディアの将来的な課題を探る 実際に起きた様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面や リスク最大値からの教訓を考える
7回(13・14)	メディアと防災②～コミュニティ放送を事例に「動画視聴講義」メディアリテラシー	実際に起きた様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面や リスク最大値からの教訓を考える テロ事件をテーマとした映像を用いてメディアリテラシー全般について考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容(報道等)には注意深くあって欲しい。

【テキスト (教科書)】

- ・『コミュニティ FM の可能性: 公共性・地域・コミュニケーション』(北郷裕美著 青弓社)
- ・『市民が育む持続可能な地域づくり』(北郷裕美 (第1章) 共著 同時代社)

【参考書】

- ・『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』(北郷裕美 共著 見洋書房)
- ・『新・公共経営論』(北郷裕美 共著 ミネルヴァ書房)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、レポート試験 70%を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で反映しディスカッションを深める。

【学生が準備すべき機器他】

講義は原則としてPPTを用い、毎回PC機器、視聴覚機器(DVD等)を使ったスクリーン・プレゼンテーション型の講義を行う。受講生がPCを用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【その他の重要事項】

教員になるまで20年以上に亘り、リクルートをはじめ、広告・映像・放送などメディアおよびコンテンツ関連の職場を複数経験した 実務家教員として当時の実績と経験を糧に講義、研究に勤しんでいる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS520R1（観光学 / Tourism Studies 500）

ニューツーリズム論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位

群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における観光の様態、変動の方向について確かな視点を持つことを先ずこの授業の目標とする。そこから観光のあり方の変容の背後に存在する、国家のレジャー政策、観光産業、文化産業の戦略等を多方面から学修する。観光におけるマスツーリズムからニューツーリズムへの道筋を批判的に捉える力を身につける。隔年開講であるため、観光開発論の内容も一部付加し、ニューツーリズムの振興について観光の歴史を踏まえながら俯瞰する

【到達目標】

観光立国推進基本法が成立してから20年弱。この間観光形態も変容し、また東日本大震災、さらにコロナ禍も挟んで観光の在り方そのものの加筆修正が続いてきた。本講義で扱う、ニューツーリズムは、この20年ほどで注目されてきた新たな旅行スタイルである。かつて、旅行形態の中心は団体で世界中の観光名所を旅して回るマスツーリズムであった。現在注目されてきたニューツーリズムは、個人を対象に、多様な嗜好に重点をおき、企画開発された「体験型」且つ「交流型」の旅を指す。さらにニューツーリズムは地域資源を活かせる地域創生事業という側面もあり、政府、観光庁も積極的に取り組みを行っている。斯様な文脈から多様な視点でニューツーリズムを理解し、今後の観光の在り方をクリティカルに検証することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面で行う。パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材（You tube、DVD動画等）も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ&Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス ニューツーリズムとは何か	・本講義の位置づけ（観光開発論 観光社会学との関連） ・マスツーリズムとニューツーリズムを考える
2回(3・4)	日本の観光政策の変遷	・日本におけるインバウンド観光の歴史と現在について ・マスツーリズムからの変容を時系列で把握する
3回(5・6)	ニューツーリズムの振興①	・観光開発の歴史 ・オルタナティブ観光とサステナブル観光の比較
4回(7・8)	ニューツーリズムの振興②	・地域創生における観光のありかたを考察する

5回(9・10)	ニューツーリズムの振興③／SDGsと「サステナブルツーリズム」	・サステナブル・ツーリズム誕生までの経緯 ・サステナブル・ツーリズムの日本における具体的な取り組み例
6回(11・12)	ニューツーリズムの振興④／多様な種類と事例	・サステナブル・ツーリズムの日本における具体的な取り組み
7回(13・14)	新しい観光"メタ観光"とは 総括 これからの観光とは	・通常の観光形態よりも一段上位（メタ）にある観光概念について考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

【テキスト（教科書）】

特には設けないが毎回作成するPPTを通して独自のノートを作成してほしい 文献等は講義の前後に適宜紹介していく

【参考書】

特には設けないが文献、論文等はその都度紹介していく

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、レポート70点

【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う
受講者の関心やニーズに合わせて、授業内容はフレキシブルに対応することとしたい。

【その他の重要事項】

講座の進め方等について初回ガイダンス時に解説する。講義内容は、受講者の関心等に沿って進捗を鑑み変更することも可とする。教員になるまで20年以上に亘り、リクルートをはじめ、広告・映像・放送などメディアおよびコンテンツ関連の職場を複数経験した 実務家教員として当時の実績と経験を糧に講義、研究に勤しんでいる

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is for the students to have a clear view point to the changing mode of contemporary tourism. Then students investigate the policies of leisure, tourism, and culture made by national and regional government. This lecture depicts the critical or alternative ways of the tourism which changes from mass-tourism to new-tourism or post mass-tourism.

TRS520R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光開発論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光開発、観光振興、地域振興の全体を俯瞰しながら、地域の観光化の功罪についても考察する。観光の歴史や観光産業の実態を検証しながら、観光は生活文化主体の地域文化であることを再確認する。さらにこの問題を最終的には政策や制度の問題と結びつけて観光開発のこれからを考える。

【到達目標】

この授業では、観光開発がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民の課題として考える。観光開発の功罪という両側面から見ることで、最終的には、観光文化の意義、意味をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 観光開発とは	最初に授業全体を概観し、本講義の目的や到達点を確認する 観光開発とは何かという原点を共有する
2回(3・4)	観光開発における功と罪 地域創生における観光	観光の意味を再確認しながら観光化におけるメリット、デメリットを考察する 観光資源の在り方を通して地域創生の課題を考える
3回(5・6)	サステナブルツーリズム	現在盛んに語られているSDGsについて再考し、それと観光の関連を通して「サステナブルなツーリズム」の意義、意味を考える
4回(7・8)	日本の観光開発の歴史	明治期から現在に至るまでの日本の観光開発の歴史を俯瞰していく 過去から現在、未来へとその足跡を辿っていくことで観光開発について再考する
5回(9・10)	観光産業の成り立ち	「旅行業」の在り方に関して、産業面での捉え方を前提に具体的な交通手段、宿泊施設について「観光産業論」として検証する

6回(11・12)	交通機関と宿泊機関を概観する	観光開発の主軸となる、交通機関と宿泊機関の全体を総括する
7回(13・14)	ホスピタリティと観光これからの観光行政を考える	「おもてなし」の意味を再検証し、正しく「ホスピタリティ」について考える 地域振興との関連から、観光を政策や制度面から捉えなおし、観光政策を取り巻く現状を踏まえた「観光開発のこれから」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】

特には設けないが毎回作成するPPTを通して独自のノートを作成してほしい 文献等はその都度紹介していく

【参考書】

以下一部ではあるが紹介する
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざし—現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995年
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学2.0—拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018年
長谷政広『観光振興論』税務経理協会1998年

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、レポート70点

【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【その他の重要事項】

教員になるまで20年以上に亘り、リクルートをはじめ、広告・映像・放送などメディアおよびコンテンツ関連の職場を複数経験した 実務家教員として当時の実績と経験を糧に講義、研究に勤しんでいる

【Outline (in English)】

With overlooking tourism development, tourism promotion, and regional promotion, we consider the advantages and disadvantages of regional tourism. In addition, in this lecture, it is important to examine the history of tourism and the actual situation of the tourism industry. Therefore, it is possible to reconfirm that tourism is a local culture centered on daily life. Ultimately, we will consider the future of tourism development by linking this issue with policy and system issues.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

BSP520R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

フィールドワーク論

北郷 裕美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、フィールドワーク（現地調査）の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に「質的調査」に軸足を置く予定である。

【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれらをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、映画、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、ワークショップも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス フィールドワークの基本①	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究（調査）の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2回(3・4)	フィールドワークの基本②	エスノグラフィーを基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3回(5・6)	フィールドワーク事例①	『映画視聴から学ぶ』 理論に基づいた事例研究に際し、方法論（調査技法）の長所短所について検証する
4回(7・8)	フィールドワーク事例②	多様なフィールドワーク事例より、参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5回(9・10)	フィールドワークの実践的なリアリティ	オンラインによる調査・フィールドワークについて考える
6回(11・12)	CASE STUDY(事例をもとに学ぶ)	フィールドワークの分析手法について『暴走族のエスノグラフィー（佐藤郁哉著）』を用いて多角的に解説する
7回(13・14)	総括 ワークショップ	グループ型のワークショップ形式で具体的なフィールドワーク事例を基に、課題や改善点を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】

特には設けないが毎回提示するPPTを通して独自のノートを作成してほしい

【参考書】

佐藤郁也(2008)「質的データ分析法—原理・方法・実践」新曜社

佐藤郁哉(1984-2011)『暴走族のエスノグラフィー』新曜社

ほか多くの参考文献は講義中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【その他の重要事項】

教員になるまで20年以上に亘り、リクルートをはじめ、広告・映像・放送などメディアおよびコンテンツ関連の職場を複数経験した実務家教員として当時の実績と経験を糧に講義、研究に勤しんでいる

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork). This lecture will basically focus on qualitative research.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%

- Term-end examination reports: 70%

TRS510R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光社会学

高岡 文章

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光という対象を社会学の観点から分析・研究するための知識や手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・観光が経済現象であり地域活性化の手段であると同時に、現代社会における重要な社会的／文化的現象であることを理解する。
- ・観光を社会的背景や構造から分析する視点を習得する。
- ・現代社会における観光のあり方を再考するとともに、観光の分析を通して現代社会の動態について洞察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせる。

講義では観光社会学の重要な学説や視点について説明する。

演習では、前の週の講義で学んだ観光社会学の概念や理論を用いて、受講生が自身の分析結果を発表する。

また、受講生と教員によるディスカッションをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 観光社会学とは何か。	①「批判の学」「暴露の学」としての社会学の特徴を学ぶ。 ②近代性と観光の関係性を理解する。 ③社会学という手法で観光を分析する面白さを体感する。
2回(3・4)	真正性	D. プーアスティンやD. マキャーネルらの議論をもとに、観光の真正性(authenticity)について学ぶ。
3回(5・6)	まなざし	J. アーリらの議論をもとに、観光と視覚（まなざし）について学ぶ。
4回(7・8)	ローカリティ	地域らしさ(locality)をめぐる議論をもとに、観光まちづくりや観光みやげについて学ぶ。
5回(9・10)	消費	J. ボードリヤールや見田宗介らの議論をもとに、消費社会、商品化、文化産業、ディズニーランド化などについて学ぶ。
6回(11・12)	参加型観光	パフォーマンスやメディアをめぐる議論をもとに、観光者が観光現象の創造や変容に参加する現代観光のあり方について学ぶ。
7回(13・14)	観光の終焉	オーバーツーリズムや地域物産展、オンラインツアーなどをもとに、観光が全域化する社会について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで紹介する論文や資料を読んでおくこと。

本授業の準備時間・復習時間は各2時間を標準とする。

受講生は授業時間外の学習成果を授業内で随時発表する必要がある。

【テキスト（教科書）】

『よくわかる観光コミュニケーション論』須藤廣ほか編、ミネルヴァ書房、2022年

【参考書】

『よくわかる観光社会学』安村克己ほか編、ミネルヴァ書房、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、学期末レポート70点。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や演習でのディスカッションの内容を次回授業に反映させる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn the knowledge and methodologies for analyzing and researching tourism from a sociological perspective.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

SOC520R1（社会学 / Sociology 500）

文化社会学

宮入 恭平

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化社会学は、経済学、哲学や政治学からメディア研究やカルチュラル・スタディーズにいたるまで、さまざまな領域を横断する学問分野です。したがって、学際的な視座が必要になります。この授業では、基本的な理論を理解しながら、社会科学の文脈から文化を分析するための方法を学びます。

【到達目標】

修士論文を書くために必須となる、論理的かつ批判的な視座からの思考を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は資料と教科書を使って進めます。1回につき2コマ分の授業をおこないます。なお、資料の配布、およびリアクションペーパーとレポートの提出には「学習支援システム」を利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション ／「結合と分離」	この授業について／教科書 Part1
2回(3・4)	「アイデンティティ」、 「嘘と秘密」	教科書 Part1
3回(5・6)	「羨望と嫉妬」、「楽し みと退屈」	教科書 Part2
4回(7・8)	「病と死」、「コミュニ ティ」	教科書 Part2、Part3
5回(9・10)	「仕事と生活」、「異文 化コミュニケーション」	教科書 Part3
6回(11・12)	「メディア」、「ネット 社会」	教科書 Part4
7回(13・14)	「ステレオタイプ」／ まとめ	教科書 Part4／全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布資料やノートを使って、授業内容の確認をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺潤（監修）『新版 コミュニケーション・スタディーズ』世界思想社、2021年

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

質問など学生からの声に耳をかたむけ、建設的に反映させます。

【その他の重要事項】

・教科書が必須になるので必ず用意してください。

・資料の配布、およびリアクションペーパーとレポートの提出は「学習支援システム」を利用します。

【Outline (in English)】

Sociology of culture is a discipline which includes many different fields from economics, philosophy and politics to media studies and cultural studies. Therefore, an interdisciplinary perspective will be needed. In this course, we will discuss about the relationship between culture and society while understanding the basic theories. The aim of this course is to help students acquire how to analyze “culture” in the context of social science.

ARS1520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域コミュニティ論

中島 由紀

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
 群／プログラム：経済・社会・雇用／
 群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域コミュニティは多様な使われた方があり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていき、最後は最新事例をみながら考察を深める。

▼前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。

▼後半は、今日的「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。特に、コロナは私たちの生活や価値観に大きな影響を与え、この変化はコミュニティの在り方にも大きく影響を与えている。論点となるのはネット社会と新しいコミュニティ形成についてである。この点について考えていく。

▼最終回の2回は、ここ数年で激変している日本社会。これからの社会に求められているコミュニティの在り方を考えて、グループ討議する。

【到達目標】

- ①自身の問いが明確になり調査研究の方向性が固まること。
- ②自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、コミュニティの何にアプローチし、どの観点から論じるのか、論点が明確になること。

以上の2点が到達できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像視聴や事例をみていき、適宜グループディスカッション形式も取り入れる。

・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。

・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？ 一理論の系譜 — ○近代から現代の変化	R.M. マッキーバー、F. テンニエス、ジンメル、ワース、バージェスらの古典的コミュニティの概念を整理する。 その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたか根幹を確認する。

2回(3・4) ○近代から現代都市論からみたコミュニティ
○日本の共同体から都市化の変化

3回(5・6) ○コミュニティ政策の変遷
○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み

4回(7・8) ○コミュニティ参加の問題
○「かかわり」の意識と「共同性」「公共性」の問題

5回(9・10) ○日本人の生活と価値観の変化
○「ウチ／ソト」「タテ／ヨコ」社会、「信頼と安心」
○ネット社会がもたらしたコミュニティの変化

6回(11・12) ○「新しい地域コミュニティ」を考える

7回(13・14) ○コミュニティの行方
○新しいコミュニティの形はどこへ向かうのか？

第1回に続き、コミュニティ論の変遷を都市論の観点でみていく。その上で、日本の共同体の概念から都市化を経た社会変化を背景に、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。

1970年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。今回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。

日本のNPOや公共を担う団体組織の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかをみていく。ここから日本人の「個」と「共同性」「公共性」の問題について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動にうつすにはどうしたらいいのか。今日的コミュニティへの「参加」の問題を扱う。

日本の生活様式、価値観はどのように変化してきたか。生活と価値観の変化は、そのまま「コミュニティの在り方の変化」と捉えることができる。
旧来型の地縁型コミュニティの特性は何か、その後のネット社会とコロナがあたえたコミュニティへの影響。今日的な地域コミュニティの変化の問題を考えていく。

2020年以降のコロナ禍、2024年からのAI技術の加速は、私たちの生活様式や価値観に大きな変化を与えた。さらに、ここ数年連続して起きている自然災害や、働き方が多様になり副業社会へと移行してきている日本。私たちの生活環境はここ数年で激変してきている。この社会変化の中で、コミュニティの存在意義を考える。これから求められているコミュニティの在り方を、各地域の事例を交えながら考えていく。

第6回目でディスカッションしたグループの「新しい地域コミュニティの在り方」を発表。さらに、これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

また、授業欠席者は資料を受取れるようにしておくため適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

以下の【参考書】の中で「●」は授業中に必ず使う。授業中に使う部分のみ一部をコピーして配布するが、全文を読了しておくことが望ましいです。

【参考書】

《必読》

- 『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999 (中公新書)
- 『共同体の基礎理論』内山節,2010年 (農山漁村文化協会)
- 『生き心地の良い町』岡壇,2013 (講談社)
- 『都市コミュニティの社会学』中村八朗, 1973 (有斐閣双書)
- 『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985 (法律文化社)
- 『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967 (講談社現代新書)
- 『都市的共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997 (ナカニシヤ出版)
- 『われらの子ども 一米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム,2017 (訳 (創元社))
- 『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009 (ちくま新書)
- 『集団と組織の社会学—集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017 (世界思想社)
- 『サードプレイス 「コミュニティの核になるとびきり心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ,2013 (みすず書房)

【成績評価の方法と基準】

- ・授業の参加とコメントシートの提出 (60%)
 - ・6回目のグループワーク&7回目の発表 (20%)
 - ・最終レポート提出 (20%)
- ※グループワークへの参加が難しい場合は個別取組みでの対応も可、但し事前に要相談

【学生の意見等からの気づき】

- 今日の「コミュニティ問題」の扱い方について
コミュニティの変化は時代の変化に呼応している。本講義の後半は今日の「コミュニティの問題」を扱う訳であるが、本講義はシラバス公開後半年以上先の開講となるため、実際の講義は時代の変化に合わせた内容に適宜変更している。この時代感にマッチした内容の討議、事例の検討が学生からは非常に有益であったという意見があったため、今年度も継続して行う。
令和6年度は新しい動きである「DAO」について、令和7年度は昨今のコミュニティの「ゆるさ」をテーマに考えた。さて、令和8年はどのような動きがあるか、その動きに着目してテーマを決める。
- 毎年、講義以外に調査方法として多くの学生が良かった点で挙げてくれるのは以下の3点がある。実際にもらったコメントと併せて紹介する。
 - ①コミュニティの歴史と年表について「コミュニティの概念を歴史を遡り各時代での意味と意義を考える行為は非常に参考になった。年表を作成して考えを整理する方法も、別のテーマでも応用できる」
 - ②文献の探し方「国会図書館や公文書検索について「論文作成に非常に参考になった」
 - ③統計データの探し方について「e-statは少しいじったことがあったが、具体的なリサーチ方法や入口を聞けて非常に役に立ちました」

【学生が準備すべき機器他】

授業で使う資料を都度、共有するため、各種資料を正確にダウンロードし一読した上での受講をお願いする。

【その他の重要事項】

本授業は、広告業界において12年間、マーケティングおよびファンマーケティングの実務に従事し、同分野をベースに地域活性化分野におけるデータ分析、コミュニティ形成、組織運営等に携わってきた実務経験を有する教員が担当する。
実務において培った「人が集まり、関係性が生まれ、継続的なコミュニティが形成される仕組み」の知見を基礎として、地域コミュニティの形成過程、関係人口、地域組織のマネジメント、データ分析による地域課題の把握などについて、具体的な事例を交えながら講義を行う。

【Outline (in English)】

The first half organizes the classic concept of community theory and its transition. From there, we will look at how it was treated in Japanese society. The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community". By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
- ・ To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".

- ・ Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

TRS520R1（観光学 / Tourism Studies 500）

観光マーケティング論

青木 洋高

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：文化・都市・観光／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「観光」は、不況や人口減少、高齢化といった課題を抱える我が国において、地域経済や社会の持続性を支える重要な分野として注目されている。とりわけ、地方都市や地域社会の活性化という観点から、観光に寄せられる期待は大きい。

一方で、旅行者のニーズは多様化しており、また近年は訪日外国人旅行者の増加により、国籍や文化的背景の異なる旅行者への対応も重要な課題となっている。さらに、デジタルプラットフォームやSNSの発達により、旅行者の情報探索や意思決定のプロセスは大きく変化している。また、地域の実態に即した「持続可能な観光」のあり方が求められるなかで、観光のスタイルや価値の捉え方も転換期を迎えている。

このような状況のもとで、多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足を高めながら、地域にとって持続可能な観光を実現していくためには、「マーケティング」の発想が不可欠である。

本授業では、マーケティングの基礎的な理論や考え方を学んだうえで、観光産業や地域観光の具体的な事例を取り上げながら、観光におけるマーケティングのプロセスや活用方法について理解を深める。観光を「売る」「伝える」視点だけでなく、地域と旅行者の関係性を設計する視点から、観光マーケティングを考える力を養うことを目的とする。

【到達目標】

観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。

講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。なお、その場合も担当教員が取り纏めを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
2回(3・4)	デスティネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
3回(5・6)	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。LCCとFSA、プライシング戦略など。
4回(7・8)	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。

5回(9・10)	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
6回(11・12)	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
7回(13・14)	デスティネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

青木洋高（2026）『物語が生まれるフードツーリズム 消費される食からの脱却、メディアとしての食』明石書店
そのほか、講義の中で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%。

【学生の意見等からの気づき】

各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

【その他の重要事項】

一部授業をオンラインでおこなう場合がある。

担当教員は旅行系出版社において自治体等のプロモーション業務に関わってきた経験を有しており、その経験を活かして、観光や地域資源の発掘に関する実践的な事例を交えながら授業を行う。

【Outline (in English)】

Tourism has attracted growing attention in Japan as an important field that supports regional economies and social sustainability amid challenges such as economic stagnation, population decline, and an aging society. In particular, expectations for tourism are high from the perspective of revitalizing local cities and communities.

At the same time, travelers' needs have become increasingly diverse. In recent years, the growth in inbound tourism has made it essential to respond to visitors from different national and cultural backgrounds. Furthermore, the development of digital platforms and social media has significantly transformed the ways in which travelers search for information and make decisions. As calls for forms of "sustainable tourism" that reflect local conditions grow stronger, tourism styles and value perceptions are also undergoing a period of transition.

Under these circumstances, a marketing perspective is indispensable for accurately understanding diverse traveler needs, enhancing visitor satisfaction, and realizing tourism that is sustainable for local communities.

In this course, students will learn the basic theories and concepts of marketing and examine their application through concrete case studies from the tourism industry and regional tourism initiatives. The aim of the course is to cultivate the ability to think about tourism marketing not only from the perspectives of "selling" and "communicating," but also from the standpoint of designing relationships between destinations and travelers.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

地域経営戦略論

渡邊 政嘉

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位

群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、人口減少・高齢化・産業空洞化などの課題に直面する地域を対象に、「行政・企業・市民が連携して地域を経営する」という視点から、地域資源を活かした戦略立案と実行の方法を実践的に学ぶこと。

【到達目標】

本講義の到達目標は、地域を一つの経営体として捉える視点を身につけ、地域課題を構造的に分析したうえで、官民連携や多様な主体との共創による実践的な地域経営戦略を立案できる能力を養うことである。また、受講者自身が関与する地域や組織において、学んだ理論や手法を応用し、戦略の実行と評価につなげられることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容を踏まえつつ、アクティブラーニングの手法を取り入れ、ケーススタディやグループワーク、ディスカッションを通じて授業を進める。受講者同士がそれぞれの実務経験や問題意識を共有し、相互に学び合うことで、理論理解を深めるとともに、実践的な地域経営戦略の構築につなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	第1回 地域経営戦略論の全体像と問題意識の共有	①本講義の目的、進め方、評価方法について説明する。あわせて、「地域経営」とは何かを概観し、従来の行政運営や地域政策との違いを整理する。受講者それぞれの立場（自治体、企業、NPO等）や関心領域、地域課題を共有し、本講義で扱う課題意識を明確化する。
	第2回 地域を取り巻く社会経済環境と構造的課題	②人口減少、高齢化、産業空洞化、財政制約など、日本の地域が直面する構造的課題を整理する。マクロな社会経済環境の変化が地域経営に与える影響を分析し、課題を表層的な現象ではなく構造的に捉える視点を養う。

2回(3・4) 第3回 経営戦略論と公共・地域経営への応用
第4回 地域資源の把握と価値創出

3回(5・6) 第5回 ステークホルダー分析と合意形成のマネジメント
第6回 官民連携・共創による地域経営

4回(7・8) 第7回 地域産業振興と雇用創出戦略
第8回 観光・交流を軸とした地域経営

5回(9・10) 第9回 デジタル技術と地域イノベーション
第10回 地域経営を支えるファイナンスと資金循環

③民間企業における経営戦略論の基礎（SWOT分析、競争優位、資源ベース理論など）を概説し、それらを地域経営にどのように応用できるかを検討する。あわせて、新公共管理（NPM）や公共経営論の考え方を整理し、地域への適用可能性と限界について議論する。

④地域に存在する人的資源、産業、文化、自然、歴史などの多様な地域資源をどのように発見・整理し、価値として再構築するかを学ぶ。成功事例をもとに、資源の「再定義」や「編集」という視点から地域経営を考察する。

⑤地域経営に関わる多様なステークホルダー（行政、企業、住民、NPO、外部人材など）を整理し、それぞれの利害関係を可視化する方法を学ぶ。合意形成のプロセスや対立の調整方法について、事例を交えながら議論する。

⑥PPP、PFI、官民共創、地域商社など、官民連携の多様な形態を取り上げ、その特徴と課題を整理する。行政主導型から共創型への転換を軸に、民間の知見や資金を地域経営に活かすための戦略的設計について考える。

⑦地域経済の基盤となる産業振興と雇用創出について検討する。第8回 観光・交流を軸とした地域経営戦略を考察する。

⑧観光を地域経営の戦略要素として捉え、地域ブランド、関係人口、交流人口の創出について検討する。観光振興の成功事例と失敗事例を比較し、持続可能な地域経営につながる観光戦略のあり方を議論する。

⑨スマートシティ、地域DX、データ活用など、デジタル技術を活用した地域経営の可能性を検討する。技術導入が目的化することのリスクにも触れ、中小自治体や地方地域において現実的に機能するイノベーションのあり方を考察する。

⑩地域金融機関の役割、補助金・交付金、投資、クラウドファンディングなど、地域経営を支える資金調達・資金循環の仕組みを学ぶ。短期的な財源確保ではなく、持続可能な地域経営を支えるファイナンスの視点を養う。

- 6回（11・第11回 地域人材育成とリーダーシップ
12） 第12回 地域経営戦略立案演習（1）
- 7回（13・第13回 地域経営戦略立案演習（2）
14） 第14回 最終発表と講義の総括
- ⑪地域経営を担う人材像について検討する。行政職員、民間人材、外部人材、若者など多様な人材の役割を整理し、地域におけるリーダーシップや学習の仕組みについて、実務経験を踏まえて議論する。
- ⑫受講者自身の関心地域や事例地域を対象に、地域課題の整理と戦略立案を行う。これまで学んだ分析手法を用いながら、グループまたは個人で戦略の骨子を作成し、相互にフィードバックを行う。
- ⑬立案した地域経営戦略について、実行プロセスや評価指標（KPI）を検討する。戦略を「実行可能な計画」として具体化する視点を重視し、持続性や改善の仕組みについて議論する。
- ⑭受講者による地域経営戦略案の発表を行い、相互講評を通じて理解を深める。講義全体を振り返り、理論と実務の統合、今後の地域経営への応用可能性について総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の理解を深めるため、関連文献や事例資料の読解、対象地域に関する情報収集・調査を行う。また、授業内のディスカッションや演習に備え、自身の実務や関心地域との関連を整理し、戦略立案に向けた準備を行う。

【テキスト（教科書）】

教員より提示する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況およびディスカッションへの貢献度及び課題に対するプレゼンテーション等を総合的に評価する。理論の理解度に加え、実務や地域課題への応用力、論理性および実行可能性を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションへの積極的参加が重要。
地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

【学生が準備すべき機器他】

一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

当該講師は経済産業省において東北経済産業局長として東北地域の地域産業政策の責任者として勤務をし、また、中小企業庁経営支援部経営支援部長として中小企業政策等の責任者等を歴任し、また内閣官房において地方創生に関する責任者としての実務経験をもつ。

これら実践経験もとに受講者自身が関与する具体的な地域や組織を念頭において、地域経営戦略の実行及び評価に関する方法論等について講義を行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide practical learning on how to formulate and implement strategies that leverage local resources, from the perspective of “managing a region through collaboration among government, businesses, and citizens,” targeting regions that face challenges such as population decline, aging societies, and industrial hollowing-out.

ARSI520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域イノベーション論

橋本 正洋

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国の産業政策全般を俯瞰したうえで、特にイノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素（国、自治体の関与）がある学生には履修を推奨する。

ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

【到達目標】

政策の歴史的流れと政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明する。また、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2回(3・4)	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3回(5・6)	イノベーション政策1	日本の科学技術・イノベーション政策の成り立ち
4回(7・8)	イノベーション政策2	産学連携と技術移転・ハイテクスタートアップ
5回(9・10)	イノベーション政策3	大学の役割、大学改革
6回(11・12)	イノベーション政策4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7回(13・14)	イノベーション政策5	政府の成り立ち、政策創造のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

十分な準備のもと、与えられた課題についてプレゼンを行うとともに、講義後課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施の場合およそ50%）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン用のパソコン等を用意すること。

【その他の重要事項】

実務（行政）経験のある教員による授業です。経済産業省・地方政府における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。場合によりゲストをお呼びして討論することもあります。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national industrial and economic policies. Students who research policy elements (involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course. Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

ECN520R1（経済学 / Economics 500）

消費者政策論

柿野 成美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位

群／プログラム：経済・社会・雇用／

群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、1. 消費者被害とその対応、2. 消費者の自立支援（消費者教育・啓発）、3. SDGs達成に向けた消費者と企業との共創（エシカル消費・消費者志向経営）である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2回(3・4)	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
3回(5・6)	地方消費者行政の実際（現地調査）	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費生活相談や自立支援策の現状と課題について学ぶ。最後に担当教員によるまとめを行う。
4回(7・8)	消費者政策の最前線（ゲストスピーカー）	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。最後に担当教員からまとめを行う。
5回(9・10)	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6回(11・12)	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7回(13・14)	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連する諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】

『日本の消費者政策—公正で健全な市場をめざして—』樋口一清・井内正敏、創成社、2020年、2500円

【参考書】

『くらしの豆知識2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件 歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015年

『消費者教育の未来—一分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：50%、平常点：50%

毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義を受講して初めて消費者政策、消費者問題を身近に感じたとする学生が多い。当たり前で何も疑問を持つことがなかった消費生活をとらえ直すと共に、自らの消費生活がより豊かになる契機としてほしい。

【その他の重要事項】

担当講師は約30年間、消費者教育の専門機関において研究員とする勤務する傍ら、法政大学大学院政策創造研究科で博士（政策学）の学位を取得、政策創造研究科で2022年から4年間教員として勤務していた。消費者教育、金融経済教育、エシカル消費、消費者志向経営など、消費者の視点から複数の審議会委員や役職につき発言を行っている。授業では最新情報や事例を紹介し、ディスカッションを行っていききたい。

【Outline (in English)】

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

SDGsと企業経営

田中 優希

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解したうえで、SDGsの17目標について理解し、さらに、SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解することを目的とする。

【到達目標】

- （1）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
- （2）SDGsの17の目標を理解できる。
- （3）SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDGsと企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 国連の理念 (2) SDGs誕生の歴史的背景 (3) 企業がSDGsに取り組む理由
2回(3・4)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(1)	SDGs目標1-6 (1) 人権についての基本的な理解を深める (2) ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3回(5・6)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(2)	SDGs目標1-6 貧困問題に取り組むソーシャル ビジネスの可能性を考える。
4回(7・8)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(1)	SDGs目標7-11 企業におけるジェンダーダイ バーシティ
5回(9・10)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(2)	SDGs目標7-11 (1) 従業員の働き方改革 (2) 人的資本経営
6回(11・12)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(1)	SDGs目標12-15 (1) 気候変動 (2) 脱炭素
7回(13・14)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(2)	SDGs目標12-15 (1) 廃棄物 (2) 生物多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を変更することもある。ただし、ゲストスピーカーを招聘する場合も、授業を運営は担当教員の責任で行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand the historical background of the United Nations' establishment of the Sustainable Development Goals (SDGs), to understand the 17 goals of the SDGs, and to further understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

MAN510R1（経営学 / Management 500）

CSR論

佐々木 恭子

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Corporate Social Responsibility (CSR) は欧州連合が21世紀の新しい政策の1つとして打ち出したことをきっかけに全世界に広がった概念であり、変化し続ける社会の中での企業と社会の関係性を問うものである。本授業ではCSRの基礎を学んだ後に、サステナビリティ、CSV (Creating Shared Value)、ESG、SDGs、パーパスなど、関連する領域に対する理解を深めることで、これらの現象について考察し、事例を用いた実践的な学びを提供する。

【到達目標】

CSR関連の様々な言葉に踊らされることなく、それらの本質的な意味を考察するための視座を身につけることで、企業と社会/ステークホルダーとの関係や各企業の取り組みを背景とともに分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。ケースを通じて、企業と社会の関わり方について実践的な学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション ～CSRとは何か～	・授業の目的と進め方 ・CSRの定義 ・ステークホルダー論
2回(3・4)	サステナビリティとCSR	・サステナビリティの定義 ・SDGsと企業活動
3回(5・6)	CSRと戦略・インパクト	・CSRとCSV ・ESG投資
4回(7・8)	CSRとレポーティング	・マテリアリティとは何か ・レポーティングの制度化 ・有価証券報告書におけるサステナビリティ情報開示
5回(9・10)	パーパスとCSR	・企業理念とパーパス ・B Corpムーブメント ・創発型責任経営
6回(11・12)	中小企業とCSR	・社会的企業とCSR ・日本国内の事例
7回(13・14)	CSRへの批判とこれからのCSR	・CSRに関する4つの批判 ・CSRの未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。

(2) 授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

國部克彦. (2017). CSRの基礎—企業と社会の新しいあり方. 中央経済社

Blowfield, M., Blowfield, M., & Murray, A. (2019). Corporate responsibility. Oxford University Press, USA.

【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献（35%）、期末レポート（65%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

【その他の重要事項】

ゲスト講師招聘などに伴い、授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

教員はスタートアップ企業、大手上場企業、外資系企業において環境経営、CSR経営に関する約20年の実務経験を有している。本講義では、これらの実務経験を踏まえてCSRに関する理論を取り扱うことにより、実社会での事象を客観的に分析する視点を養う。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is a concept that has become popular worldwide since the European Union launched it as one of its new policies for the 21st century. It questions the relationship between companies and society in a constantly changing society. In this class, students will learn the fundamentals of CSR and gain a deeper understanding of related areas such as sustainability, CSV (Creating Shared Value), ESG, SDGs, and Purpose. The class will discuss these trends and provide practical learning through case studies.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

非営利組織特論

今瀬 政司

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会貢献を第一に考え、公益活動あるいはビジネス・経済活動を行う「民間非営利組織」を理論的かつ実践的に学ぶ。民間非営利組織には、狭義の非営利組織（NPO法人、市民公益活動団体、ボランティア団体等）と広義の非営利組織（公益社団法人、公益財団法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、生活協同組合、農業協同組合、宗教法人等）がある。「社会貢献とビジネスを両立する働き方」を目指して、NPO法人や一般・公益社団法人などで就職や起業する人も増えている。こうした民間非営利組織について、全国各地の多数の具体的な事例も交えて理解するとともに、NPO法人を具体的に設立や運営を行うための実践的ノウハウも学ぶ。NPOと行政、企業等の協働事業や地域づくり、ならびに地縁型非営利組織による新たな地域自治システムについても学ぶ。

【到達目標】

民間非営利組織について、「非営利」の概念・特徴、企業や行政では担えない社会的存在意義、活動や政策の歴史的な経緯、現場の実態や課題などを理解すると共に、その公益・公共性の高い社会的役割と、ベンチャー以上のベンチャーとしてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する経済的役割を理論的かつ実践的に理解する。また、NPO法人を具体的に設立して運営を行ったり、政策的な対応などを行う上での実践的な知識・ノウハウを身につけ、自らの考え方を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員資料や参考書等を使いながら知識・ノウハウを学ぶ講義を進めるとともに、受講者の問題意識、研究テーマ、日々の取組みに関連した内容も取り上げながら、質疑応答や自由なディスカッション等にもできる限り時間をかける。実践的な学習に重点を置いて、具体的な団体・活動事例や日々の社会的な出来事も積極的に話題として取り上げ、現場の民間非営利組織や行政・企業等の視点からそれらの本質について討論する機会も設ける。特に、担当教員が実際に様々な非営利組織の活動に携わった事例、あるいは調査研究で関わった事例を主に取り上げることで、リアリティを持って理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	オリエンテーションと非営利組織の概論	受講者の問題意識・研究テーマ等の確認と授業の進め方などの説明を行う。その上で民間非営利組織の概論を学ぶ。
2回(3・4)	非営利組織の特徴と活動史・政策史	非営利組織の組織・運営形態、特徴、企業や行政では担えない社会的存在意義などを学ぶ。1980年代後半から市民が切り拓いてきた狭義の非営利組織（NPO）の活動と政策の歴史を学ぶ。

3回(5・6) 狭義と広義の非営利組織

4回(7・8) 公益と経済の担い手としての非営利組織

5回(9・10) NPO法人の概要と設立・運営ノウハウ

6回(11・12) 協働による地域づくりと社会的課題の解決

7回(13・14) 地縁型非営利組織による地域自治システム

狭義の非営利組織（NPO法人、市民公益活動団体等）と広義の非営利組織（公益法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、生活協同組合、農協等）のそれぞれについて学ぶ。

公益・公共概念の変化を踏まえた上で、狭義の非営利組織の「公益の担い手」としての社会的役割と実態・課題を学ぶ。また、「経済主体」としてソーシャルビジネスや新たな産業・市場を創出する役割と実態・課題を学ぶ。NPO法人（特定非営利活動法人）について、その組織運営形態、設立要件、法人化の長所・短所などを学ぶ。また、NPO法人を具体的に設立し運営するための必要書類や手続き等のノウハウを学ぶ。

NPOと行政の協働事業の概念と実態・課題について、従来型の地域づくり等との違いを踏まえながら学ぶ。また、NPOと企業の協働事業、企業のCSR、SDGsなどの実態と課題を学ぶ。市町村合併の影響や地域自治組織・システムの再編などに伴って変わる住民自治と、「地縁型非営利組織」としての住民組織・地域自治組織やその関連政策の実態と課題を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業テーマに関する予習をしておき（各回1時間程度）、事後に授業での学びを整理して考察すること（各回3時間程度）。学んだことを実社会での出来事と照らし合わせるとともに、そこから自らの疑問や興味に応じて様々な手段で学びを深めて、自らの考え方を構築していくこと。参考書『地域主権時代の新しい公共 希望を拓くNPOと自治・協働改革』を事前に読むことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

今瀬政司（2011）『地域主権時代の新しい公共 希望を拓くNPOと自治・協働改革』学芸出版社、ISBN978-4-7615-2525-5（事前に読むことをお勧めします）

テーマに関連した参考文献や実践的な活動情報等を必要に応じて授業中に紹介する。

担当教員（今瀬）のWeb公開論文や実践活動資料等も必要に応じて紹介する。

http://sicnp.jp/imase_profile.html

【成績評価の方法と基準】

レポート課題70%、平常点30%

理解力・探究力・活用力・表現力等で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員資料や参考書等をより有効に活用しながら、質疑応答や自由な討論等にもできる限り時間をかけながら授業を進める。また、受講者のニーズに応じて、知識・ノウハウの理解と共に、より実践的な学習にも重点をおいて進める。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

担当教員（今瀬）は、シンクタンク企業や民間非営利組織10団体以上に所属して、様々な実践活動や国・自治体の政策形成にも関わってきていることから、その具体的な実務経験を紹介することで、リアリティを持って実践イメージを持てるようにする。

今瀬政司の実務実績&研究実績のホームページ

http://sicnp.jp/imase_profile.html

(NPO法人市民活動情報センター代表理事、愛知東邦大学経営学部教授、公益社団法人奈良まちづくりセンター理事)

【Outline (in English)】

An increasing number of people are finding employment or starting a business in a private non-profit organization with the aim of "a work style that balances social contribution and business." In this class, you will learn theoretically and practically "private non-profit organizations" that carry out public interest activities or business / economic activities. Private non-profit organizations include non-profit organizations in a narrow sense (civil activity groups, etc.) and non-profit organizations in a broad sense (public interest corporations, etc.).

Learn about private non-profit organizations with a number of concrete examples:

(1)Organization / operation form and characteristics, (2)Social significance that cannot be done by companies or governments, (3)Historical history of activities and policies, (4)Actual conditions and issues in the field, (5)Practical know-how to specifically establish a private non-profit organization, (6)Collaboration business by NPO and government / company, community development, (7)A new regional autonomy system by a non-profit organization based on the territory.

Prepare for the lesson theme in advance (about 1 hour each time), and organize and consider what you learned in the lesson after the fact (about 3 hours each time). While comparing what you have learned with events in the real world, you will deepen your learning by various means according to your own doubts and interests, and build your own way of thinking.

Grades are 70% for report assignments and 30% for normal scores. Evaluation is based on comprehension, inquiry, utilization, and expressiveness.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

ダイバーシティ経営

福田 智美

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「ダイバーシティ経営とは何か」を基礎から整理したうえで、特に「企業価値」と連動するダイバーシティ経営に焦点を当てて考察する。ジェンダーの視点にとどまらず、多様な人材の活躍が企業の中長期的な価値創造や競争力にどのように結びついているのかを、企業の社会的責任やESG投資の観点から検討する。具体的な国内外の企業事例を用いながら、日本企業が直面する課題と対応、ならびにグローバルにおけるダイバーシティ経営の潮流を紹介し、比較・分析を通じて理解を深める。講義とディスカッションを通じて、ダイバーシティ経営を「理念」ではなく「経営戦略」として捉える視点を養うことを目的とする。

【到達目標】

本講義は経営学の視点を重視し、受講生は以下を達成することを目指す。

1. ダイバーシティ経営を、企業価値・経営戦略の観点から説明できる。
2. ESG投資および資本市場の視点から、ダイバーシティ経営の意義を分析できる。
3. 企業事例を通じて、ダイバーシティ経営の影響について論理的に議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、前半に講義を行い、後半は受講生による発表およびディスカッションを通じて、理論と実践の接続を図る。最終回ではケーススタディを用い、受講生がダイバーシティ経営に関わる経営判断の場面を想定し、自らが考えた意思決定および実践方法について発表する。これらを全体で共有し、議論を通じて理解を深める。なお、授業は原則として対面で実施するが、講師の都合によりオンライン形式を併用する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 講義の進め方と評価方法 (2) ダイバーシティ経営の基本概念と企業価値との関係
2回(3・4)	日本社会とダイバーシティ	(1) 講義：日本社会の現状と企業経営への影響 (2) ディスカッション：日本社会の構造変化とダイバーシティの必要性
3回(5・6)	企業におけるダイバーシティ（1）：企業全体	(1) 講義：日本企業におけるダイバーシティ経営の実態 (2) ディスカッション：企業事例を用いたダイバーシティ経営の分析

4回(7・8)	企業におけるダイバーシティ（2）：取締役会	(1) 講義：取締役会におけるダイバーシティとガバナンス (2) ディスカッション：取締役会ダイバーシティの企業価値への影響
5回(9・10)	企業におけるダイバーシティ（3）：資本市場の視点	(1) 講義：機関投資家・ESG投資家が評価するダイバーシティ経営 (2) ディスカッション：資本市場から見た日本企業のダイバーシティ経営
6回(11・12)	グローバル企業におけるダイバーシティとその発展	(1) 講義：グローバル企業におけるダイバーシティ、人的資本、ESG (2) ディスカッション：各国の制度・文化と企業戦略の比較
7回(13・14)	ダイバーシティ&インクルージョン／講義のまとめ	(1) 講義：ダイバーシティ&インクルージョンと持続的価値創造 (2) ケースメソッド：「ケース：ダイバーシティ部門の意思決定」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生には、国内外企業のダイバーシティ経営を、経営者、管理職、または投資家の立場から捉え、企業価値、人的資本、生産性、競争優位といった経営・経済の観点から継続的に分析する姿勢を求める。各回の準備学習として、講義テーマに関連する企業を1社程度選定し、当該企業のダイバーシティ施策が業績、資本効率、リスク管理、ガバナンスにどのような影響を与えているかを検討したうえで授業に参加する。復習として、講義およびディスカッションで得られた知見を、自身の実務経験や組織に照らし合わせて整理し、経営上の意思決定への示唆としてまとめることを求める。準備学習および復習には、各回あたり合計2～4時間程度を想定している。

【テキスト（教科書）】

毎回、講師が資料を配布する。参考文献は都度紹介を行う。

【参考書】

山口一男著『ダイバーシティ（豊かな個性は価値創出の泉）一生生きる力を学ぶ物語』東洋経済新報社、2008年
E.H.シャイン『企業文化 改訂版：ダイバーシティと文化の仕組み』白桃書房、2016年
保田隆明共著『企業価値に連動する人的資本経営戦略』中央経済社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）：授業への参加姿勢、ディスカッションへの貢献度、事前準備の状況を評価する。
講義内発表（50%）：企業事例に基づく分析の妥当性、論理的構成、経営・経済の視点からの考察、ならびに発表および質疑応答への対応を評価する。
最終レポート（30%）：講義内容を踏まえ、ダイバーシティ経営を企業価値や経営戦略の観点から分析し、自身の見解を論理的にまとめているかを評価する。
実務経験や自身の組織・投資判断との関連付けも評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ディスカッションおよび発表のため、資料閲覧や簡単な調査が可能なPC等の持参が望ましい。

【その他の重要事項】

本講義は、「実務経験のある教員による授業」に該当する。担当教員は、機関投資家としてファンドマネジメントおよび企業分析に携わり、株式投資を通じて企業価値評価や経営戦略、ガバナンスに関する実務経験を有している。あわせて、ESG投資および人的資本、ジェンダーダイバーシティを専門分野として研究活動を行っている。また、担当教員は、こうした実務経験を背景に、新聞・テレビ等のメディアを通じて、企業経営や資本市場に関する発信を行ってきた。本講義では、これらの経験を活かし、ダイバーシティ経営を理論や制度論にとどめず、実際の投資判断や経営意思決定と結びつけて扱う。具体的には、実在する企業事例や投資家の視点をを用い、受講生が経営者または投資家の立場で判断を行うケースディスカッションを中心に授業を構成する。講義は社会人大学院の科目として、受講生の実務経験を前提に、理論と実務を往復しながら経営課題を分析し、意思決定能力を高めることを重視する。レポート作成等において生成AIの利用は補助的な目的に限り認めるが、最終的な分析・判断・文章構成は受講生自身が行うものとする。

【Outline (in English)】

This course provides a foundational understanding of diversity management, with a particular focus on its relationship to corporate value. Going beyond a gender-only perspective, it examines how diverse human capital contributes to long-term value creation and competitiveness from the perspectives of corporate social responsibility and ESG investing. Using case studies from Japan and abroad, the course explores challenges faced by Japanese companies and global trends in diversity management. Through lectures and discussions, students will develop the ability to view diversity management not as a mere ideal, but as a strategic approach to corporate management.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

コーポレートガバナンス

林 順一

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
 群／プログラム：地域産業・企業／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コーポレートガバナンスとサステナビリティの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

【到達目標】

コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのか、またサステナビリティのいくつかの論点について、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、講師作成のレジメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 授業の進め方の説明とその確認 (2) 最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2回(3・4)	米国のコーポレートガバナンス	(1) 米国のコーポレートガバナンスの変遷 (1930年代から現在まで、事例を含む) (2) 最近の動き (ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など)
3回(5・6)	英国のコーポレートガバナンス	(1) 伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み (機関投資家の役割の重視など) (2) 最近の動き (コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など)
4回(7・8)	わが国のコーポレートガバナンス	(1) 外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史 (2) アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5回(9・10)	ドイツのコーポレートガバナンス、サプライチェーンの人権問題	(1) ドイツのコーポレートガバナンスの特徴と課題 (2) サプライチェーンの人権問題への対応
6回(11・12)	フランスのコーポレートガバナンス、社会的企業	(1) フランスのコーポレートガバナンスの特徴 (2) ベネフィットコーポレーション、ダノン・Open AIの事例分析など
7回(13・14)	ESG投資、全体のまとめ	(1) ESG投資 (2) 全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

(1) 事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。(2) 授業を振り返り、論点を整理してください。(3) 期末レポートの作成があります。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。

【参考書】

林順一(2022)『コーポレートガバナンスの歴史とサステナビリティ 会社の目的を考える』文真堂。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)、期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

コーポレートガバナンスに馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。また受講生の要望に柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

該当ありません。

【その他の重要事項】

※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
 実務家教員（非常勤）。銀行・証券業界28年、不動産・資産運用会社10年余の実務経験（コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む）を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance and sustainability to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

ECN520R1（経済学 / Economics 500）

少子高齢化と社会保障

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について資料を提示したうえで、各回ディベート形式で討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化及び移民問題についても議論する。
2回(3・4)	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
3回(5・6)	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
4回(7・8)	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
5回(9・10)	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
6回(11・12)	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいのか、議論する。
7回(13・14)	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。毎回、次のディベートのテーマを示すので、参考資料を読んで準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

○政府の白書等

内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」

○その他

エスピー・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房

阿部彩『子どもの貧困』岩波新書

池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫

大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学 すれちがう医者」と患者』東洋経済新報社

大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書

小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社

河野綱果『人口学への招待』中公新書

小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ

是川タ『ニッポンの移民一増え続ける外国人とどう向き合うか』ちくま新書

柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房

友原章典『移民の経済学』中公新書

永吉希久子『移民と日本社会』中公新書

山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書

吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加）（30％）、各回の課題（20％）、最終レポート（50％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【その他の重要事項】

教員はシンクタンクで医療・ヘルスケア関連の産業調査及び社会保障政策に関する調査経験があり、制度設計及び現実社会への政策の影響について実務経験を踏まえた授業を実施する。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ECN520R1（経済学/Economics 500）

ウェルビーイング論

高尾 真紀子

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し働くために、地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】

ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、EBPM（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な知識や考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップやグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回(3・4)	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回(5・6)	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4回(7・8)	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5回(9・10)	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回(11・12)	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。

7回(13・14) 課題発表

各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役立つ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

内田由紀子『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社

内田由紀子『日本人の幸せーウェルビーイングの国際比較』2025年、中公新書

大竹文雄、白石小百合、筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』2010年、日本評論社

経済協力開発機構『OECD幸福度白書2ーより良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年、明石書店

島井哲志『幸福の構造ー持続する幸福感と幸せな社会づくり あなたの幸せは何に左右されているか？』2015年、有斐閣

高尾真紀子編著（2025）『みんなで作る幸せなまち 地域ウェルビーイング』三恵社

前野隆司『幸せのメカニズムー実践・幸福学入門』2013年、講談社現代新書

矢野和男『文庫 データの見えざる手 ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年、草思社文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加・貢献）（30％）、各回の課題（20％）、最終レポート（50％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いやワークショップによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

【その他の重要事項】

教員はシンクタンクにおいて社会保障及び地域政策についての調査分析の実務経験があるため、学術的な知見に加え、ウェルビーイングに関わる様々な政策や企業動向、社会への影響について多面的な授業を実施する。

【Outline (in English)】

In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being, taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

雇用政策研究（マクロ）

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ)について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	ーそもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思いついてる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。そもそも、日本の雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
2回(3・4)	日本的雇用と雇用の国際比較	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える
3回(5・6)	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	

4回(7・8) 職業能力開発

職業能力開発とは、通常の人材開発となりが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える

5回(9・10) 非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方

非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える

6回(11・12) 兼業・副業と雇用によらない働き方

兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。

7回(13・14) ミドル・シニアの働き方とまとめ

日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ピーター・キャベリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社、2001年
2. 清家篤『雇用再生—持続可能な働き方を考える』NHK出版、2013年
3. 山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会、2016年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社、2017年
5. 川上淳之『副業の研究』慶応義塾大学出版会、2021年
6. 小熊英二『日本社会のしくみ』講談社、2019年
7. 石山恒貴『人が集まる企業は何が違うのか』光文社、2025年

【参考書】

- ・労働経済白書
- ・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②2500字以上の長さの科目レポートの得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を示すことがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN520R1（経営学 / Management 500）

地域雇用政策事例研究

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回(3・4)	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回(5・6)	ゲスト講義	地域雇用において、その活性化のために特徴的な取り組みを行っている地域の専門家にお越しいただき、講義していただき、担当教員によるまとめを行う。
4回(7・8)	地域のサードプレイスと関係人口	地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。

5 回(9・10)	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
6回(11・12)	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7回(13・14)	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討(その2) 地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べる（その成果を授業中に発表していただく）
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。
石山恒貴編『地域とゆるくつながろうーサードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社 2019年
石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々：サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社 2024年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.
Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN520R1（経営学 / Management 500）

人材育成論

石山 恒貴

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な理論の潮流も含めた人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回(3・4)	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回(5・6)	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回(7・8)	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。

5 回 (9・10)	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6回(11・12)	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7回(13・14)	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年
石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②各自が分担する事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。
企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN510R1（経営学 / Management 500）

人的資源管理論

石山 恒貴

科目分類：基本科目（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回(3・4)	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回(5・6)	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する

4回(7・8) 戦略的的人資源管理と人事部の機能・役割

特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的的人資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。

5回(9・10) タレントマネジメントおよび受講者による事例発表

タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。

6回(11・12) 受講者による事例発表

受講者による事例発表を行う。

7回(13・14) 受講者による事例発表とまとめ

受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れている。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

有沢正人・石山恒貴『カゴメの人事改革』中央経済社、2023年
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社、2020年
石山恒貴『越境の学習のメカニズム』福村出版、2018年
石山恒貴『人が集まる企業は何か違うのか』光文社、2025年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回あたり5点満点で計35点満点）、②受講者による事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

ECN520R1（経済学 / Economics 500）

実証分析入門

梅溪 健児

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域・働き方・生活に関する実証分析を行う学術論文を教材とし、初学者が量的研究の読むスキルを鍛えることを目的とする。授業では、個人や組織の選択に関わる多様な分野（移住、進学、就業、結婚など）から論文を取り上げ、最近の研究でスタンダードとなっている分析手法に慣れることを目指す。また、教材は多くが査読論文であることから、修士論文につながる論文執筆の作法を実感できるように工夫する。

統計データを扱う量的分析を実践的に学んだことのない受講生が実証分析のポイントを理解できるように、イメージ図を用いながら講義を進めていく。

【到達目標】

1. 回帰分析において用いられる専門用語や特殊な言い回しを違和感なく理解できること、2. 分析結果の図表のメッセージを素早く押さえ、結論導出を納得するための勘どころに習熟すること、3. 先行研究の渉猟に対する気後れをなくすこと、以上3点が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業シリーズの初期は基礎編として、実証分析論文の標準スタイル、データの整理、検定や回帰分析などについて講義を行う。その後は実践編として、毎回1～2本の学術論文を教材とし（合計6本の見込み）、講師が用意するチェックシートに基づいて、論文の骨格を理解できるように読み進めていく。必須事項については講師がパワポ資料を用いて毎回解説し、授業の中心は量的分析に関する各自の読解スキルの向上にあてて。

教材となる論文は1週間前にプリントして配布する。パワポの講義資料は予習の便を図るため、事前に学習支援システムにファイルを掲載する（プリントは授業で配布する）。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	基礎：実証分析論文を読む	東京圏から地方への移住に関する実証分析論文について、読み方を学ぶ。項目：要約、問題意識（リサーチクエスション）、データ、記述統計量（基本統計量）、先行研究、仮説設定、考察、結論など
2回(3・4)	基礎：分析手法を学ぶ	男女の賃金格差の分析を取り上げ、主要なアプローチを学ぶ。項目：回帰分析、因果関係、逆の因果関係、コントロール（統制）、見せかけの相関、二値変数、ダミー変数など なお、授業時間が許せば、次回の講義に前倒しで進むことがある。

3回(5・6) 実践1：大学進学における都市部と地方の対比
実践2：結婚と男女の学歴格差

4回(7・8) 実践3：非正規から正社員への転換

5回(9・10) 実践4：女性活躍と企業業績
実践5：男性の家事・育児の有効性

6回(11・12) 実践6：ソーシャル・キャピタルと地域の健康

7回(13・14) 共通課題に関するレポートの発表と討議

実践1：都道府県別の大学進学率に対して就職後に得られる賃金が与える効果を分析する手法を学ぶ。

実践2：女性の高学歴化が未婚率上昇の一要因であるとの見方について、個人データを用いて検証する手法を学ぶ。

実践3：女性非正社員の企業内正社員への転換について、個人を対象とした量的調査を用いて要因を統計的に分析する手法を学ぶ。

実践4：女性の管理職登用など女性活躍の推進が企業業績に与える影響を企業レベルのデータで分析する手法を学ぶ。

実践5：少子化対策として男性による家事・育児の推進が有効であるのか、夫婦レベルのデータを用いて検証する手法を学ぶ。

実践6：住民主体の通いの場づくりを通じた高齢者の介護予防は地域間の健康格差を是正するの、地域レベルのデータで検証する手法を学ぶ。

共通のテーマに基づいて受講生が作成したレポートの発表と意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究テーマに関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、参考文献を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、毎回教材とする学術論文等を事前に配布する。教材は、稲葉陽二、大石亜希子、太田聡一、大湾秀雄、玄田有史、近藤克則、筒井淳也、中室牧子、八代尚宏、山本勲氏らの論文等から選択する予定である。学習の幅を広げるために、視点の異なる副教材も配布する。

【参考書】

大湾秀雄（2025）『男女賃金格差の経済学』日本経済新聞出版社
筒井淳也（2015）『計量社会学入門』世界思想社
中室牧子、津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社
森田果（2014）『実証分析入門』日本評論社
山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

講義理解のチェックシート 60%（10%×6）
期末レポートの発表と討議 40%

【学生の意見等からの気づき】

担当教員が変わりました。かつての経験では、知的好奇心を持ち受講を継続する受講生は研究の実践力を高めました。

【学生が準備すべき機器他】

学術雑誌にアクセスし論文検索を行うパソコンは必須。講義中にスマホから学習支援システムを使用することがあります。

【その他の重要事項】

1. 講師が経済学を学んできたことから、教材の論文は経済学者のものが多くなります。しかし、経済学の知識は受講の条件ではありません。2. 最近では計量社会学が盛んになり、経済学者と同様の分析が社会学者によって鋭く行われています。本講義が重点をおく学習スキルは計量社会学のスキルと同じであると講師は理解しています。3. 講義で取り上げる論文の内容（例、進学、結婚など）は受講生の研究テーマとは重ならないかもしれません。その場合でも、授業が量的分析の読解力の蓄積に役立つことを期待しています。4. 講師は公務員を務め30年を超える政策の実務経験があります。とりわけ、経済・社会・生活分野の企画立案を担当しました。講義においては、実証分析が現実の流れを改善する一歩となる政策含意を持つのかを考察できるように工夫します。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the quantitative research methods of academic papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical studies on domestic migration, university entrance, employment, marriage, and social capital.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

キャリア理論と統計分析

佐藤 雄一郎

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文を執筆する際にアンケートなどの量的調査を実施することを想定し、調査の実施方法、設問の作成方法、分析の手法、結果の読み取り方など、基本的な知識・スキルを学ぶ。また、最終的に量的調査を実際に行えるようになることを目標とする。学習の題材としてはキャリア理論に関する調査や論文を使用するが、あくまでも統計の理解を深めるための例示として用いるものである。そのため、キャリア理論以外のテーマを扱う場合でも問題なく学習できる。

【到達目標】

1. 量的調査（アンケートの設計、実施、分析、結果の解釈）の一連の手法を理解し、自身の研究に活用できるようになる。
2. 単純集計やクロス集計、t検定、分散分析、回帰分析などの基本的な統計手法を正しく用いて結果を読み解くことができるようになる。
3. 統計分析を活用した論文や修士論文を理解・評価し、自分の研究テーマにも応用できる視点を身につける。
4. キャリア理論を題材とした調査事例を参照することで、量的調査の実践的なプロセスを把握し、学んだ統計手法を幅広いテーマに応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業では、量的調査に関する基本事項を解説するとともに、授業支援システムを用いて受講者それぞれの研究テーマや調査内容を共有し、フィードバックを行う。さらに、グループワークを実施し、キャリアに関する調査や論文、量的調査を活用した修士論文の事例を解説することで、学習内容への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	オリエンテーション / 量的調査実施の全体像	オリエンテーションでは、本授業の到達目標や成績評価の方法、授業の進め方を概説する。講義では、量的調査を実施する際の全体像を示し、本授業の方向性を提示する。
2回(3・4)	量的調査で実施できること / 分析方法の全体像	量的調査を行うことで、修士論文執筆においてどのようなことが可能になるのかを説明する。あわせて、代表的な分析方法の種類（単純集計やクロス集計、t検定、分散分析、回帰分析など）と、それぞれで明らかにできることを示す。

3回(5・6) アンケート調査の作り方

アンケート調査を実施するプロセスや設問を作成する上での留意点、データをどのように扱うのかなどについて解説する。
※実際のアンケートを題材にイメージを掴む。

4回(7・8) アンケート調査の設問作成と集計方法

アンケート調査について具体的にどのように設問を作り、どのように集計し、何を明らかにしていくのかについて解説する。

5回(9・10) 統計の読み方・使い方①（流れ・全体像、代表的な分析手法）

量的データについて本格的な分析を実施するに当たって必要なプロセス、分析の視点・方法、代表的な分析方法（単純集計やクロス集計、t検定、分散分析、回帰分析など）について全体像を示す。

6回(11・12) 統計の読み方・使い方②（モデルづくり、因子分析）

調査の前提となるモデルの考えを理解するとともに、量的調査に展開し分析するための分析モデルへの落とし込みとその要素となる変数の設定（因子分析）方法について解説する。

7回(13・14) 統計の読み方・使い方③（論文全体の分析モデル、調査の分析モデル、因果関係の提示）

量的調査を用いた修士論文を例に、どのようにモデルを展開し、調査を行ったのかを示す。このモデルをもとに、原因と結果の因果関係を想定した分析手法（回帰分析）を中心に解説し、仮説の検証方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から論文や書籍に触れることが望ましい。授業で配布した論文や資料をはじめ、関連する論文や書籍を読んでおくこと。
本授業では、準備学習 1.5時間、復習時間 1.5時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業では、レジュメと本授業用のテキストを配布し、これらをもとに進行する。必要に応じて、各テーマに関連する論文や調査報告書も配布する。たとえば、キャリア理論に関する文献として、キャリアレジリエンス、キャリアアダプタビリティ、キャリア焦燥感、キャリアブラトリー、キャリア自律などを参考資料として提示する予定である。ただし、本授業はキャリア理論自体を学ぶことを目的とするものではなく、あくまでも量的調査を実施する際の参考として、それらの論文を用いるものである。したがって、人的資源管理やキャリア論の事前知識がない院生でも問題なく履修できる。

【参考書】

・宮本聡介・宇井美代子『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社、2014年
その他、必要があれば授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点(授業への参加、グループワーク、課題) 35 %
②最終レポート 65 %

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、量的調査を実施するために必要なスキルや方法を中心に学ぶものである。昨年度の履修生の皆様のニーズを確認すると、①実際に修士論文で量的調査を実施したいという希望が多かったが、他にも②量的調査を用いた修士論文が読めるようになることや、③キャリア理論を用いた論文を読めるようになることについてのニーズも一定数いた。今回も院生のニーズを確認しながら授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

・最終レポートは手書きではなく、原則としてWordで作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。

- ・ オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
- ・ 授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【担当教員の実務家としての経験】

企業および業界団体において、20年以上にわたりマーケティングや調査設計に関する業務に従事してきた経験を有している。その実務経験を踏まえ、調査設計、調査手法、分析方法について実践的に指導することができる。

【Outline (in English)】

In this class, students will acquire the fundamental knowledge and skills necessary for conducting quantitative research, including how to implement surveys, formulate questions, analyze data, and interpret findings. The overall goal is to enable students to incorporate quantitative research into their master's theses. The course will use surveys and papers on career theory as illustrative materials to deepen students' understanding of statistics; however, these examples are not restrictive. Therefore, students can still derive significant value from the class even if they plan to research topics other than career theory.

MAN520R1（経営学 / Management 500）

キャリア政策研究

岸田 泰則

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中の不確実性が高まるなか、個人のキャリア・マネジメントはますますその価値を高めている。本授業では、個人のキャリア・マネジメントについての理解を深めることを目的とする。授業では、一貫して働くことの意味を考えていく。授業では、主に組織行動論、キャリア心理学の概念を扱う。

【到達目標】

本授業では、個人のキャリア・マネジメントに関する課題への考察を通じて、働くことの意味を自ら考えるきっかけを得ることができる。さらには、キャリア・マネジメントの先行研究（質的研究が中心）を自らのオリジナルな視点でレビューできることを最終的な到達目標とする。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Think about the meaning of work by themselves through consideration of career-related issues.
- ・ Evaluate previous studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

各回とも学生が分担して、先行研究（質的研究が中心）をレビューし、その結果を発表する。その後、講師が先行研究の基本的な概念と研究方法について説明を加える。毎回、授業の後半でグループディスカッションを行い、グループごとにその結果を発表することで理解を深める。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	オリエンテーション	授業の目的・到達目標、そして、先行研究のレビューの仕方について説明する。中間発表のスケジュールを確定する。
2回(3・4)	ゲスト講演	キャリア政策の事例について、ゲスト講師から説明する。その後、ディスカッション、担当講師によるまとめを行う。
3回(5・6)	若年者のキャリア・マネジメント	若年者のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
4回(7・8)	ミドル・シニアのキャリア・マネジメント	ミドル・シニアのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
5回(9・10)	女性のキャリア・マネジメント	女性のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
6回(11・12)	フリーランスのキャリア・マネジメント	フリーランスのキャリア・マネジメントについての理解を深める。

7回(13・14)	グローバル人材（外国人を含む）のキャリア・マネジメントとまとめ	グローバル人材（外国人を含む）のキャリアマネジメントについての理解を深める。授業全体のふりかえりを行う。
-----------	---------------------------------	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として事前に指定された先行研究（論文）を読み、自らのオリジナルな視点でレビューをし発表することを課題とする。なお、課題は分担として、授業7回の中で1回は担当するようにする。本授業の準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回2時間を標準とする。

Students will be expected to read the previous study, review them from your own original perspective, and present your findings. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

各回の授業において、授業資料と論文（質的研究が中心）を提示する。

【参考書】

近藤龍彰・浅川淳司『心理学論文読解新書一論文の読み方・まとめ方活用ガイド』ミネルヴァ書房 2022年

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループ討議）30%
- ②各自が担当する発表（中間発表）30%
- ③最終レポート 40%

最終レポートとして、キャリア・マネジメントに関わる先行研究のレビューを

3000字程度のレポートとして提出する。

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 30%, mid-term report 30%, and 40% final report.

【学生の意見等からの気づき】

授業の都度、学生から多くの発言が出るように工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、授業時にPC等を利用することは構わない。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは、授業開始前と授業終了後とする。教員は、メーカーでの取締役、営業部門長、技術部門長の経験を有する。また、キャリアデザイン研修の講師の経験も有しており、さまざまな社会人のキャリア支援に携わってきたので、実務経験の話を講義の中で開示することがある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of measures to encourage career management of workers. In this course, we will consider the meaning of work consistently.

ARS1520R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

男女共同参画政策論

池永 肇恵

科目分類：プログラム科目（選択） | 単位：2単位
群／プログラム：経済・社会・雇用／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

性別に関わりなく能力が発揮できる男女共同参画社会は、誰にとっても暮らしやすい社会である。海外に比べて日本は男女共同参画で大きく後れをとっている。当授業では、様々な分野における男女共同参画の現状と課題、関連施策について学び、政策提言に必要な視点や知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

男女共同参画に関するデータから日本の経済社会に潜むジェンダー（社会的・文化的な性別）のバイアスに気づき、ジェンダーへの感度を高める。家庭・職場・地域などで、多様な個人を尊重し性別にかかわらず能力が発揮できる、いわゆるダイバーシティ、エキティ&インクルージョンに向けた環境づくりに資する知識や視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

男女共同参画に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終日のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	導入/経済分野	ジェンダーの概念、ジェンダーギャップ指数、男女の就業状況、女性活躍の経済への影響、関連法制度などを学ぶ。
2回(3・4)	政治分野/ハラスメント	女性議員の状況、政治分野に関する国内外の関連法制度、セクハラ、マタハラ・パタハラ、DVや性暴力など男女間の暴力の実態と対応策を学ぶ。
3回(5・6)	ワークライフバランス/法制度の中立性	家事・子育て・介護等と仕事のバランス、社会保障・税制・家族法制等が男女の行動に及ぼす影響を学ぶ。
4回(7・8)	健康・スポーツ/教育・科学技術	男女の健康・疾病状況、医療分野、教育・科学技術における女性の参画状況、多様性とイノベーションなどを学ぶ。

5 回（9・ 地域社会/防災10）

地域社会の様々な分野での担い手、意思決定過程、防災・被災現場・復興など各過程における女性参画の状況と意義を学ぶ。

6回(11・ 国際動向と残された12) 課題/最近のトピック

SDGsを含む国際的な関心の高まり、「意識」の問題、AIやコロナ禍の影響など新たな課題を学ぶ。

7回(13・ まとめ、レポート発14) 表・ディスカッション

これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持ったジェンダー課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどに接し、どのようなジェンダー課題があるか、必要な対応はどのようなものかに関して、自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】

内閣府「男女共同参画白書」

イリス・ボネット『ワークデザイン』NTT出版 2018年

キャロライン・クリアド＝ペレス『存在しない女たち』河出書房新社2020年

マシュー・サイド『多様性の科学』ディスカバリー・トゥエンティワン 2021年

前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019年

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書 2019年

牧野百恵『ジェンダー格差』中公新書 2023年

小西一禎『妻に稼がれる夫のジレンマ』ちくま新書 2024年

【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）、平常点（30%）

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。

受講生自身が関心を持ったジェンダー課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

講師は元内閣府男女共同参画局長として、男女共同参画に関する国の政策立案・実施に携わってきた。その経験を活かし、データに照らしながら政策の背景や意義について講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary perspectives and knowledge needed for policy making through learning the current situation, challenges and related policy measures with respect to gender equality.

BSP500R1（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

レポートライティング

佐藤 雄一郎

科目分類：導入科目（選択） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文の執筆に必要な基本的知識とスキルを習得することを目的とする。修士論文を「序論」「本論」「結論」に分け、各パートで何をどのように書くかについて具体的な方法とスキルを学ぶ。特に、論文の作法と序論の書き方に力点を置き、問題意識、先行研究、リサーチギャップ、リサーチクエスションの流れに沿って構造的に論文を書く力を高める。最終レポートでは、今後作成する修士論文の序論に相当する部分を実際に書き上げることで、実践的な執筆力を養うことを目指す。

【到達目標】

学術論文の形式に関する知識をもとに、自ら設定したテーマに関する論文を書く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とグループワークを組み合わせで進行する。講義では、論文執筆に必要な知識やスキルを中心に扱う。グループワークでは、論文のテーマやリサーチクエスションの設定、先行研究の共有など、論文執筆に欠かせない事項を深め、参加者が研究の進め方や論文執筆に関する具体的なイメージを形成するように進める。さらに、授業支援システムを利用して、参加者は各セッションのテーマに関する考えや進捗を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	・授業の進め方及び参考書の紹介 ・研究や論文の概略 ・自分の研究テーマや問題意識の整理
2回(3・4)	論文の基礎事項	・論文の構成 ・論証の方法 ・自分の研究の「問い」（明らかにしたいこと）の設定
3回(5・6)	序論の記述（1）	・論文における序論の役割 ・問題提起と背景の説明 ・先行研究の記述とリサーチクエスションの設定
4回(7・8)	序論の記述（2）	・先行研究の調べ方 ・先行研究を踏まえた文章の書き方 ・先行研究からリサーチギャップの導き方 ・参考文献の記載の仕方 ・剽窃ソフトの活用

5 回（9・ 序論の記述（3）10）

6回(11・ 本論と結論の記述12)

7回(13・ まとめ14)

・参考となる修士論文に基づく序論の論理展開の検討・共有
（問題意識の論理展開→研究上の意義→先行研究の論理展開→リサーチギャップの焦点化→リサーチクエスションへの展開）

・本論の役割と記述
・様々な研究方法
・調査結果の記述方法
・結論の役割と記述
・研究上の意義（理論的意義・実践的意義）
・研究の限界と課題
・論文の書き方のルール（体裁・表記など）
・論文の文章校正の仕方
・参考文献の記載の仕方
・剽窃ソフトの活用
・各種ツールの活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後の課題、および最終レポートを作成し提出する。

【テキスト（教科書）】

授業時にレジュメを毎回配布する。

【参考書】

小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』講談社現代新書 2022年。
栗田治『思考の方法学』講談社現代新書 2023年。
佐藤郁哉『リサーチ・クエスションとは何か？』筑摩書房 2024年。
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年。
戸田山和久『新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK出版 2012年。

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループワーク、課題）35%
- ②最終レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見からは、個々のテーマに即したコメントやフィードバックが重要であるという点が明らかになった。そこで、可能な限り学生の論文テーマを授業で取り上げ、修士論文の序論執筆を進めるための場として活用できるようにすることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

・最終レポートは手書きではなく、原則としてWordで作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。
・オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
・授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【担当教員の実務家としての経験】

企業および業界団体において、20年以上にわたりマーケティングや調査設計に関する業務に従事してきた。加えて、修士課程および博士課程を通じて培った論文執筆の経験と知見を有している。これらを踏まえ、レポートや論文の書き方について実践的に指導することができる。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to help students acquire the fundamental knowledge and skills necessary for writing a master's thesis. The course divides the thesis into three parts — introduction, body, and conclusion — and covers specific methods and techniques for what to write and how to write in each section. Particular emphasis is placed on the conventions of thesis writing and on structuring an introduction according to the logical flow of problem awareness, previous research, research gaps, and research questions. For the final report, students will develop practical writing skills by drafting the portion of their future master's thesis that corresponds to the introduction.

OTR530R1（その他 / Others 500）

特別講義Ⅰ（統計学入門）

後藤 嘉孝

科目分類：（選択） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会科学分野の研究に必要な統計学の基礎を学びます。統計に苦手意識を持つ受講者でも理解しやすいよう、理論と実践をバランスよく組み合わせ、データ分析の考え方や基本的な統計手法を習得することを目的とします。

修士課程で量的研究（アンケート等）を予定している受講者は、統計の基礎知識を身につけ、自身の研究に活用できることを目指します。一方、質的研究を予定している受講者は、統計手法を用いた先行研究を適切に読み解く力を養うことを目指します。

【到達目標】

- ・統計学の基本概念を理解し、データの整理や可視化ができる。
- ・仮説検定や回帰分析などの基本的な統計手法を用いて、データを分析・解釈できる。
- ・先行研究の統計分析結果を読み解き、自身の研究に活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・実際に統計ソフト（エクセルを予定）を用いた演習により理解・定着を図ります。
- ・社会科学の論文を題材にし、統計の手法の具体的な活用例について、グループ討議を行います。
- ・統計学が初めての受講者を念頭に、丁寧に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション（統計学とは）	講義の概要と進め方について説明する。また、データの集め方、データと母集団などの統計学の基本概念を学びます。
2回(3・4)	母集団と標本、確率	母集団と標本の概念、確率の考え方について学びます。
3回(5・6)	推測統計と信頼区間 統計データの探し方	推測統計の考え方（標本から母集団を推測する）、点推定と区間推定（信頼区間の概念）、標本サイズと誤差の関係について学びます。 また公的統計データを含む各種統計データの探し方・活用方法について学びます。
4回(7・8)	仮説検定の基本	仮説の立て方（帰無仮説と対立仮説）、p値の意味と統計的有意性、第一種の過誤・第二種の過誤について学びます。
5回(9・10)	様々な仮説検定（t検定・分散分析・カイ二乗検定）	t検定、分散分析およびカイ二乗検定（クロス集計表を用いた分析）について学びます。

6回(11・12) 相関と回帰分析（単回帰・重回帰）、因子分析、共分散構造分析

相関の考え方（相関係数の意味と注意点）、単回帰分析（最小二乗法・回帰直線・決定係数）、重回帰分析、因子分析、共分散構造分析について学びます。

7回(13・14) まとめ

本授業の復習・まとめと自身の研究に関連する論文を読み、研究に統計分析をどのように活用できるかを発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・演習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で配布するレジュメ（パワーポイント）をテキストとして使用します。

【参考書】

阿部真人『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』ソシム（2021）
毛塚和宏『社会科学のための統計学入門 事例からていねいに学ぶ（KS専門書）』講談社（2022）
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社（2013）
神林博史、三輪哲『【改訂新版】社会調査のための統計学 一生涯にわたる事例で理解するー現場の統計学』技術評論社（2024）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）：授業への参加・貢献度
提出課題（50％）：各回の演習課題、期末レポート課題

【学生の意見等からの気づき】

統計に馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。前回の内容を毎回復習することで定着を図ります。授業で取り上げる論文について、受講者の研究に関連する先行研究を解説するなど受講生の要望に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

授業でエクセルを使うことがあるため、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。シンクタンクにおける社会調査・データ分析の経験を踏まえ、研究だけでなく実務にも役立つ事例を交えながら授業を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the fundamental statistical concepts necessary for research in the social sciences. The aim is to help students develop an understanding of statistical thinking and basic data analysis techniques through a balanced approach that combines theory and practice.

For students planning to conduct quantitative research, this course will provide the foundational knowledge necessary to utilize statistics effectively and apply it to their own studies. For those focusing on qualitative research, it will enhance their ability to accurately interpret previous studies that utilize statistical techniques.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

Understand fundamental statistical concepts and organize data effectively.

Apply statistical methods such as hypothesis testing and regression analysis to analyze and interpret data.

Read and interpret statistical results in academic papers and utilize statistical approaches in their own research.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours reviewing lecture materials and completing assigned exercises to reinforce their understanding of statistical concepts.

【Learning activities outside of classroom】

After each class, students are expected to review the textbook and lecture materials to reinforce their understanding of fundamental concepts.

Students will complete exercise problems as homework to apply and deepen their knowledge.

The standard preparation and review time for this course is two hours per session.

【Grading Criteria /Policy】

Class participation and contribution: 50%

Assignments and final report: 50%

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究のできるようになる。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回(3・4)	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回(5・6)	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4回(7・8)	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5回(9・10)	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6回(11・12)	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7回(13・14)	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8回(15・16)	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9回(17・18)	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10回(19・20)	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11回(21・22)	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察する手法の検討（その3）
12回(23・24)	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13回(25・26)	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）

14 回 調査と研究について 調査と研究を実践できることの
(27・28) のまとめ 確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

石山 恒貴

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

そのために演習は毎週2コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回(3・4)	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回(5・6)	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4回(7・8)	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5回(9・10)	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6回(11・12)	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7回(13・14)	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8回(15・16)	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9回(17・18)	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10回(19・20)	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11回(21・22)	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察する手法の検討（その3）
12回(23・24)	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13回(25・26)	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）

14 回 調査と研究について 調査と研究を実践できることの
(27・28) のまとめ 確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際には、通年で30数回の演習がなされるが、そのために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」
「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2回(3・4)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3回(5・6)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4回(7・8)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5回(9・10)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6回(11・12)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7回(13・14)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8回(15・16)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9回(17・18)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

10 回 各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得

11 回 各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得

12 回 各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得

13 回 各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得

14 回 各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得

教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。その他、必要に必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

[Learning Objectives]

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

[Learning activities outside of classroom]

Preparation for presentation.

[Grading Criteria / Policy]

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

上山 肇

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」
「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題
についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向
けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状
況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2回(3・4)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3回(5・6)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4回(7・8)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5回(9・10)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6回(11・12)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7回(13・14)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8回(15・16)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9回(17・18)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

10回(19・20)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11回(21・22)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12回(23・24)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13回(25・26)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14回(27・28)	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。その他、必要に必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

[Learning Objectives]

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

[Learning activities outside of classroom]

Preparation for presentation.

[Grading Criteria / Policy]

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】

先行研究を適切に読み込み、質的または量的調査の実証分析による修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
2回(3・4)	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3回(5・6)	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
4回(7・8)	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
5 回 (9・10)	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
6回(11・12)	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
7回(13・14)	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
8回(15・16)	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
9回(17・18)	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
10 回 (19・20)	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
11 回 (21・22)	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
12 回 (23・24)	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13 回 (25・26)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14 回 (27・28)	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011年、東京大学出版会

上野千鶴子『情報生産者になる』2018年、ちくま新書

岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学Vol.2 M-GTAによるキャリア研究』2021年、晃洋書房

佐藤郁哉『社会調査の考え方(上下)』2015年、東京大学出版会

佐藤郁哉『リサーチ・クエスチョンとは何か?』2024年、ちくま新書
その他についてはその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加と研究発表による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活性化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

※授業の内容やスケジュールは変更する場合があります。
教員はシンクタンクでの社会調査、統計分析、事例研究、政策提言等の実務経験があり、実務経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

高尾 真紀子

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】

質的または量的分析を活用した修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など質的調査の方法を学ぶ。
2回(3・4)	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
3回(5・6)	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
4回(7・8)	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
5回(9・10)	フィールドワーク結果の分析	フィールドワーク結果をもとにグループワークで分析を実施する。
6回(11・12)	フィールドワーク結果の発表	フィールドワークの分析結果を発表する。
7回(13・14)	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
8回(15・16)	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
9回(17・18)	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
10回(19・20)	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
11回(21・22)	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
12回(23・24)	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
13回(25・26)	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。
14回(27・28)	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。

その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017年、中公新書

伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011年、東京大学出版会

岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTAによるキャリア研究』2017年、見洋書房

岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 Vol.2 M-GTAによるキャリア研究』2021年、見洋書房

岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 Vol.3 M-GTAによるキャリア研究』2022年、見洋書房

【成績評価の方法と基準】

演習への参加、研究発表による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活性化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

※授業の内容・スケジュールは変更する場合があります。

教員はシンクタンクでの社会調査、統計分析、事例研究、政策提言等の実務経験があり、実務経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ること目標とする。

修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標とする。

【到達目標】

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標とする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う /Explain how to proceed with the class
2回(3・4)	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
3回(5・6)	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
4回(7・8)	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法 /Procedure and method of writing a dissertation
5回(9・10)	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回(11・12)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork
7回(13・14)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回(15・16)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回(17・18)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription

10回(19・20)	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork
11回(21・22)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
12回(23・24)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13回(25・26)	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/summary
14回(27・28)	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは毎週月曜日16～18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

増淵 敏之

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ること目標とする。

修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2回(3・4)	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
3回(5・6)	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
4回(7・8)	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法 /Procedure and method of writing a dissertation
5回(9・10)	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回(11・12)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回(13・14)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回(15・16)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回(17・18)	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10回(19・20)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation

11回(21・22)	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork	研究発表/Research presentation ※フィールドワーク/fieldwork
12回(23・24)	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13回(25・26)	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
14回(27・28)	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは毎週月曜日16 - 18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

北郷 裕美

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光およびメディアである。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどを中心に進める。また、個人の進度に応じた個別指導を並行して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2回(3・4)	M1 研究計画個人発表とディスカッション	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
3回(5・6)	論文作成に向けた講義・演習	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
4回(7・8)	M2 研究計画個人発表とディスカッション	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
5回(9・10)	『既存先行論文購読』研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6回(11・12)	『既存先行論文購読』研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7回(13・14)	社会学思考について の学びとディスカッション	『映画視聴』 視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
8回(15・16)	『既存先行論文購読』研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
9回(17・18)	『既存先行論文購読』研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10回(19・20)	『既存先行論文購読』研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする

11回(21・22)	社会学思考について の学びとディスカッション	『映画視聴』 視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
12回(23・24)	ゼミ越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる 見学後グループディスカッションと振り返りを行う
13回(25・26)	外部講師による講義	観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得る グループディスカッションと振り返りを行う
14回(27・28)	夏休みの調査・研究 の準備	各々の研究テーマ考察 夏休み中にどのような調査研究を行うのか具体的なプランを検討し共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特段設けない 都度提示する

そのほか各回の演習に必要な論文や資料は毎回コピーして配布する。

【参考書】

都度提示する 基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している

【成績評価の方法と基準】

メディア学、観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【Outline (in English)】

In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600R1（その他 / Others 600）

プログラム演習

北郷 裕美

科目分類：演習科目（必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光・メディアである。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作る

ようにすることを到達目標にする。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文とし

て認められるものを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学生の発表を基本に進める。校外学習（フィールドワーク）は合同ゼミ合宿を想定して行う（予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス 夏休み中の研究進捗・調査内容の報告	秋学期へのプラン発表 受講生各々が研究とスケジュール発表を行う
第2回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
第3回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
第4回	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
第5回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
第6回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
第7回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
第8回	ゼミ越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる 見学会後グループディスカッションと振り返りを行う
第9回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑥	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
第10回	M1中間発表会予行対策	中間発表会に向けて研究テーマから全体でディスカッションする

第11回 修士論文の口述試験予行演習 ゼミ内報告 修士論文の構想を発表 確認ディスカッション

第12回 M2修論中間発表準備演習 修士論文の全体について報告する

第13回 外部講師による講義 観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得る
グループディスカッションと振り返りを行う

第14回 ビブリオバトル発表会 ゼミ振り返り 個々のテーマに沿ったおすすめの既存文献をプレゼン発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習に必要な論文や資料は毎回HOPPIIにアップロードもしくはコピーして配布する。

【参考書】

都度提示する 基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している また関連する既存の各種論文を読み解く機会も設けたい

【成績評価の方法と基準】

メディア学、観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【その他の重要事項】

ゼミへの積極的な参加を望む。やむを得ず欠席する際は事前に申し出る。進行過程において各回のテーマの変更、入れ替えはあり得る。

【Outline (in English)】

In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

MAN700R1（経営学 / Management 700）

雇用政策特殊研究Ⅰ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の初年度に該当し、最終的な博士論文の完成を可能とするための知識・スキルの習得を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士後期課程の初年度として、学会発表、査読論文執筆などを十分に進めることができるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【その他の重要事項】

企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

Goal

At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

MAN710R1（経営学 / Management 700）

雇用政策特殊研究Ⅱ

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の中間の年度となることから、博士論文に着手できる条件をすべて整えるための内容を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士論文に着手できる条件を整えるために、特に査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【その他の重要事項】

企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

Goal

At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers. Emphasis will be placed on reaching a level that will enable students to write peer-reviewed papers.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

MAN720R1（経営学 / Management 700）

雇用政策特殊研究III

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

特に博士後期課程の集大成として、博士論文の完成に関連する内容を重点的に実施する。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

本授業は博士後期課程の集大成となることから、博士論文そのものの完成に該当するレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【その他の重要事項】

企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

Goal

At the end of the course, students are expected to reach a level corresponding to the completion of the doctoral dissertation itself.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

ARSx700R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 700）

都市政策特殊研究Ⅰ

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】

論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」
に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最
後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
2回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
3回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
4回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
5回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
6回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
7回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
8回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
9回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
10回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
11回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
12回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
13回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
14回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
15回	前半のまとめ	発表及びディスカッション
16回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
17回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
18回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
19回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
20回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

21回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
22回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
23回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
24回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
25回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
26回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
27回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
28回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読。

【テキスト（教科書）】

適宜示します。

【参考書】

まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。
その他、必要に必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした
経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度か
ら講義する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis of
urban policy to students taking this course.

[到達目標 (Learning Objectives)]

Preparation of papers and presentation at academic confer-
ences, etc.

[Learning activities outside of classroom]

Reading related literature.

[Grading Criteria / Policy]

Evaluation will be made based on the statements made at the
presentations and discussions, and the research results.

ARSx710R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 700）

都市政策特殊研究Ⅱ

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】

論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」
に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最
後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
2回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
3回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
4回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
5回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
6回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
7回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
8回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
9回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
10回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
11回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
12回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
13回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
14回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
15回	前半のまとめ	発表及びディスカッション
16回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
17回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
18回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
19回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
20回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

21回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
22回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
23回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
24回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
25回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
26回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
27回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
28回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準
とします。

【テキスト（教科書）】

適宜示します。

【参考書】

まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。
その他、必要に必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした
経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度か
ら講義する。

【Outline (in English)】

This course introduces about writing method of a thesis of
urban policy to students taking this course.

ARSx720R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 700）

都市政策特殊研究III

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】

論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」
に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最
後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
2回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
3回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
4回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
5回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
6回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
7回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
8回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
9回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
10回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
11回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
12回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
13回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
14回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
15回	前半のまとめ	発表及びディスカッション
16回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
17回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
18回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
19回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
20回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

21回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
22回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
23回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
24回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
25回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
26回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
27回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
28回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準
とします。

【テキスト（教科書）】

適宜示します。

【参考書】

まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。
その他、必要に必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした
経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度か
ら講義する。

【Outline (in English)】

This course introduces about writing method of a thesis of
urban policy to students taking this course.

地域社会政策特殊研究 I

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、査読論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、論文執筆のスキルを習得する。修士論文の再検討と査読論文の執筆を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス及び研究計画の確認	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール・研究計画の確認
2回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
3回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
4回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究レビュー等、個別指導を行う
5回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究等、個別指導を行う
6回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7回	論文作成に向けた個別指導 RQの設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切なRQを設定するため、個別指導を行う
8回	論文作成に向けた個別指導 RQの設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切なRQを設定するため、個別指導を行う
9回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
10回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
11回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

[illegible]

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

教員はシンクタンクでの社会調査、統計分析、事例研究、政策提言等の実務経験があり、実務経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARS1710R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700)

地域社会政策特殊研究 II

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文の投稿及び掲載を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス及び研究計画の確認	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール・研究計画の進捗確認
2回	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
3回	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
4回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
5回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
6回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
8回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
9回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
10回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
11回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
12回	論文作成に向けた個別指導 結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

13回	論文作成に向けた個別指導 結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
14回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
15回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
16回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
17回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
18回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
19回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
20回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
21回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
22回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
23回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
24回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
25回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
26回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
27回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
28回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

査読論文執筆に向けた具体的な指導を行う。

【その他の重要事項】

教員はシンクタンクでの社会調査、統計分析、事例研究、政策提言等の実務経験があり、実務経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARSI720R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700)
地域社会政策特殊研究III
高尾 真紀子
科目分類：博士後期（選択必修） 単位：4単位
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文を基に博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス及び研究計画の確認	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール・研究計画の進捗確認
2回	論文作成に向けた個別指導 博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
3回	論文作成に向けた個別指導 博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
4回	論文作成に向けた個別指導 博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
5回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
6回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
7回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
8回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
9回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
10回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
11回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
12回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。

13回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
14回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
15回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
16回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
17回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
18回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
19回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
20回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
21回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
22回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
23回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
24回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
25回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
26回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
27回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
28回	論文作成に向けた個別指導 博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

教員はシンクタンクでの社会調査、統計分析、事例研究、政策提言等の実務経験があり、実務経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARS1700R1 (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 700)

文化政策特殊研究Ⅰ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

1年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う /Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
3回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
4回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
5回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
12回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
13回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge

14回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson
15回	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う /Explain how to proceed with the class
16回	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
17回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
18回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references
19回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
20回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
21回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
22回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
23回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
24回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
25回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
26回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
27回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
28回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARS1710R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700)

文化政策特殊研究Ⅱ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

1年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う /Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
3回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
4回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
5回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
12回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
13回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge

14回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson
15回	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う /Explain how to proceed with the class
16回	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
17回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
18回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references
19回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
20回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
21回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
22回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
23回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
24回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
25回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
26回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
27回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
28回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARS1720R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700)

文化政策特殊研究Ⅲ

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：4単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】

1年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う /Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
3回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
4回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
5回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
12回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
13回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge

14回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson
15回	ガイダンス /guidance	授業の進め方について説明を行う /Explain how to proceed with the class
16回	研究計画の発表 /Announcement of research plan	研究計画の発表 /Announcement of research plan
17回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文の書き方/How to write a dissertation
18回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references
19回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
20回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
21回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
22回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
23回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
24回	教員の関心事 /Faculty Interests	教員の関心事/Faculty Interests
25回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
26回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
27回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ/Summary by the teacher in charge
28回	まとめ/Summary of the lesson	まとめ/Summary of the lesson

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】

文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。放送、音楽業界で実務経験あり。その経験、視点を授業に具体的に活かしていく。

【Outline (in English)】

As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSx590R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

都市政策特殊講義（地域社会論）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】

地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2回(3・4)	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における「混住地域」などをテーマに授業を進めます。事例研究(1)
3回(5・6)	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについて、「サステナブル・シティ」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(2)
4回(7・8)	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から「地域社会とまちづくり」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(3)
5回(9・10)	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究を行い、同時に「地方分権」や「参加」「ルール」等について考えます。事例研究(4)
6回(11・12)	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に「再開発」や「福祉のまちづくり」といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(5)
7回(13・14)	土地と環境	論点の広い「土地と環境」の中でも、特に「都市計画」や「景観」などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究(6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

実践・自治体まちづくり学－まちづくり人材の育成を目指して－（公人の友社）。まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、レポート30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

・皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業（1回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces local community and community development to students taking this course.

【Learning Objectives】

1.Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).

2.Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.

【Learning activities outside of classroom】

Please read the materials to be distributed.

【Grading Criteria / Policy】

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

都市政策特殊講義（まちづくり事例研究）

上山 肇

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】

フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながらいって行くことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それらを表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2回(3・4)	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3回(5・6)	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4回(7・8)	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5回(9・10)	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6回(11・12)	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7回(13・14)	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象地に関する資料収集とフィールドワークを行います。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－（公人の友社）。講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、発言20％、作品30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【その他の重要事項】

担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARS1590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

文化政策特殊講義(文化基盤形成論)

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要があるだろう。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひとつひとつのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】

学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	文化基盤についての概念、歴史地理学的なアプローチの検討 /Examining a historical geographic approach to cultural infrastructure	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成 /Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
2回(3・4)	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers About the formation of cultural foundation by the settlement of Ikebukuro Montparnasse and Hosei University village

3回(5・6)	サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション/Salon formation, case studies / street communication
4回(7・8)	札幌における文化基盤形成のプロセス /The process of forming a cultural foundation in Sapporo	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開 /Development of cultural infrastructure formation / industry creation centered on Sapporo Agricultural College
5回(9・10)	福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス /The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク /Forming a cultural foundation centered on pop music / Japanese cultural network in prewar Dalian
6回(11・12)	海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介/Introducing London Chelsea, New York Greenwich Village, Munich Schwabing, etc.
7回(13・14)	履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表 /Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students	履修学生の発表を行う /Announce students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。13/14回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

今橋映子『異都憧憬 日本人のパリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生 音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表含む）30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】

より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16～18時。放送、音楽業界で実務経験あり。その経験、視点を授業に具体的に活かしていく。

【Outline (in English)】

Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

ARS1590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

文化政策特殊講義（コンテンツツーリズム論）

増淵 敏之

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツツーリズムの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
2回(3・4)	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力/History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介/Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
3回(5・6)	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム/Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom

4回(7・8) 「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenon

マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism

5回(9・10) 司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ/Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content

歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images

6回(11・12) ご当地ソング考、「鬼滅の刃」を巡る/Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"

ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例/Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism

7回(13・14) 新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る/Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work

現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響/Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之,彩流社

「物語を旅するひとびと2」増淵敏之,彩流社

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVDを使用することもある。

【その他の重要事項】

多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16～18時。放送、音楽業界で実務経験あり。その経験、視点を授業に具体的に活かしていく。

【Outline (in English)】

Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

ARS1590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域社会政策特殊講義（少子高齢化と社会保障）

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を獲得する。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について資料を提示したうえで、各回ディベート形式で討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化及び移民問題についても議論する。
2回(3・4)	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
3回(5・6)	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
4回(7・8)	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
5回(9・10)	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
6回(11・12)	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいのか、議論する。
7回(13・14)	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。毎回、次のディベートのテーマを示すので、参考資料を読んで準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

○政府の白書等

内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」

○その他

エスピー・アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房

阿部彩『子どもの貧困』岩波新書

池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫

大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学 すれちがう医者」と患者』東洋経済新報社

大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書

小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社

河野綱果『人口学への招待』中公新書

小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ

是川タ『ニッポンの移民一増え続ける外国人とどう向き合うか』ちくま新書

柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房

友原章典『移民の経済学』中公新書

永吉希久子『移民と日本社会』中公新書

山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書

山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書

吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加）（30％）、各回の課題（20％）、最終レポート（50％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【その他の重要事項】

教員はシンクタンクで医療・ヘルスケア関連の産業調査及び社会保障政策に関する調査経験があり、制度設計及び現実社会への政策の影響について実務経験を踏まえた授業を実施する。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ARS1590R1（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域社会政策特殊講義（ウェルビーイング論）

高尾 真紀子

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し働くために、地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】

ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、E B P M（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な知識や考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップやグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回(3・4)	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回(5・6)	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4回(7・8)	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5回(9・10)	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回(11・12)	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。

7回(13・14) 課題発表

各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役立つ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

内田由紀子『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社

内田由紀子『日本人の幸せーウェルビーイングの国際比較』2025年、中公新書

大竹文雄、白石小百合、筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』2010年、日本評論社

経済協力開発機構『OECD幸福度白書2ーより良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年、明石書店

島井哲志『幸福の構造ー持続する幸福感と幸せな社会づくり あなたの幸せは何に左右されているか？』2015年、有斐閣

高尾真紀子編著（2025）『みんなでつくる幸せなまち 地域ウェルビーイング』三恵社

前野隆司『幸せのメカニズムー実践・幸福学入門』2013年、講談社現代新書

矢野和男『文庫 データの見えざる手 ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年、草思社文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加・貢献）（30％）、各回の課題（20％）、最終レポート（50％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いやワークショップによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

【その他の重要事項】

教員はシンクタンクにおいて社会保障及び地域政策についての調査分析の実務経験があるため、学術的な知見に加え、ウェルビーイングに関わる様々な政策や企業動向、社会への影響について多面的な授業を実施する。

【Outline (in English)】

In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being, taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（雇用政策研究（マクロ））

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ)について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	ーそもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思いついてる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2回(3・4)	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3回(5・6)	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える

4回(7・8) 職業能力開発

職業能力開発とは、通常の人材開発となりが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える

5回(9・10) 非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方

非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える

6回(11・12) 兼業・副業と雇用によらない働き方

兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。

7回(13・14) ミドル・シニアの働き方とまとめ

日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ピーター・キャベリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社、2001年
2. 清家篤『雇用再生-持続可能な働き方を考える』NHK出版、2013年
3. 山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会、2016年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社、2017年
5. 川上淳之『副業の研究』慶応義塾大学出版会、2021年
6. 小熊英二『日本社会のしくみ』講談社、2019年
7. 石山恒貴『人が集まる企業は何が違うのか』光文社、2025年

【参考書】

- ・労働経済白書
- ・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②2500字以上の長さの科目レポートの得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（地域雇用政策事例研究）

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回(3・4)	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターンの含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回(5・6)	ゲスト講義	地域雇用において、その活性化のために特徴的な取り組みを行っている地域の専門家にお越しいただき、講義していただき、担当教員によるまとめを行う。
4回(7・8)	地域のサードプレイスと関係人口	地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
5回(9・10)	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。

6回(11・12)	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7回(13・14)	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討(その2) 地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べる（その成果を授業中に発表していただく）
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社 2019年

石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々：サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社 2024年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of

Regional Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（人材育成論）

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な理論の潮流も含めた人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回(3・4)	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回(5・6)	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回(7・8)	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。

5 回 (9・10) 経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表

学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

6回(11・12) 事例発表

7回(13・14) 事例発表および人材育成の未来とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年 石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年 石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②各自が分担する事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN590R1（経営学 / Management 500）

雇用政策特殊講義（人的資源管理論）

石山 恒貴

科目分類：博士後期（選択必修） | 単位：2単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回(3・4)	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回(5・6)	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する

4回(7・8) 戦略的的人資源管理と人事部の機能・役割

特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的的人資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。

5回(9・10) タレントマネジメントおよび受講者による事例発表

タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。

6回(11・12) 受講者による事例発表

受講者による事例発表を行う。

7回(13・14) 受講者による事例発表とまとめ

受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れている。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

有沢正人・石山恒貴『カゴメの人事改革』中央経済社、2023年
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社、2020年
石山恒貴『越境の学習のメカニズム』福村出版、2018年
石山恒貴『人が集まる企業は何か違うのか』光文社、2025年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回あたり5点満点で計35点満点）、②受講者による事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にしていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。企業における人事部門の経験に基づき、企業の実態に合致したグループ討議を学生に促す。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

